興奮再現。

持ち運んで楽しむか

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W（2.1W＋2.1W、EIAJ/DC）のパワー。12cmウーハー（中低音域用）と3.5cmツイーター（高音域用）採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●（クロム／ノーマル）テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき（別売り APS-80）使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子（R用、L用各1個）つき

ステレオパディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V（単1×6） AC：100V 50/60Hz カーアダプター（別売りD-70） ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12（cm） ●重さ 5.0kg（乾電池含む）

システムパディスコ

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー（APS-80）の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー（HT-320）を接続すればレコード音楽も楽しめます。（MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要）

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800（レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です）

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

若杉、小野（久留米工大付属高）晴れの代表に

世界ジュニア選手権（男女）陣容決まる

日本協会は、9月22日の常務理事会で、強化部提出の「第2回世界ジュニア選手権代表選手団名簿」（男女）を承認した。プレス発表は、10月4日に予定されるが、男子に2人の高校選手が含まれるなど次代をになう"若い全日本"の世界初登場は、大きな期待がかけられる。

昨冬以来、参加の準備を進めていた世界ジュニア選手権への代表メンバーは、初めてのこともあり各方面から注目を集めていたが、男女とも、まず申し分のない顔触れが出揃った。

男子は、出場資格が昭和三十三年以降生まれと限定され、学生、実業団の若手、それに高校界の大器が含まれるかどうか、期待されていた。

ノミネート段階では、10人近い候補があったと伝えられるが、結局、7月のリストアップは4選手（=本誌177号参照）、このなかから、久留米工大付高の若杉、GK小野両選手が、初の"金的"を射とめた。

強化部、コーチングスタッフとも、高校界の4選手は、全員、代表に、と考えていたようだが、学業とのからみなどあって、実現しなかった。

その他の14選手は、学生界の新鋭と実業団の若手で、"世界"に対抗する大型選手がピックアップされた。

強化部の「ジュニアは身長中心で選ぶ。小柄の異能選手は、それが国際舞台でも通用するとすれば即ナショナルへ加える」という方針にのっとったもの。

ナショナルチームからの加入（年令有資格者）は、結局、仲田（日大）ら5選手にとどまった。

有資格のGK井藤（日体大）は、アジア選手権—アジア予選（11月）に備えるため、今回のメンバーからは、はずれた。

学生界から3選手選抜

一方、女子（三十四年以降生まれ）は、3人の学生選手が選抜されたのが目立つ。

過去のナショナルチーム（海外遠征）は、ほとんど学生界からの選抜がなかっただけに、3選手の活躍ぶりいかんでは、今後の道に通じるものとなろう。

7月発表のリスト（本誌177号）には、5人の高校生の名が見えるが、いずれも学業さらには宮崎国体などとのからみで、参加辞退の意思表示があったと伝えられる。

男子同よう、ナショナルチーム内の有資格者の取り扱いに、注目が集っていたが、矢部、井村、水上の3選手揃って、代表となった。

3選手とも、11月のオリンピック予選（台湾）に選ばれる可能性もあり、今回の遠征で、自信をつけて戻れば、ナショナルチームにとっても、大きな力になろう。

なお、日本協会・荒川理事長は「男女とも、ジュニアの舞台で、国際的なパワーがあることが判れば、それらの選手を、モスクワ・オリンピック候補選手に追加することもある」といっている。

女子の団長は本誌〆切日（9月22日）までに未発表。

第2回世界ジュニア選手権 日本代表チーム

○……男　子……○

・団　長　幸田　末之（男子強化部長）
・監　督　木野　実（強化委員会コーチ群）
・コーチ　木田　洋（強化委員会コーチ群）
・マネジャー　山口毅（強化委員会総務）
・選手

	氏名	所属	身長
GK	山下　直樹	京都産大	185cm
	蓑輪　正雄	名城大	186
	小野　司	久留米工大付高	183
FP	三浦　力	日体大	183
	寺山　敦雄	日体大	179
	高村　誠一	日体大	187
	○田口　長雄	中大	186
	○猪野　栄一	中大	186
	尾上　良生	中大	178
	○仲田　稔	日大	184
	○西山　清	筑波大	181
	田野　好晃	京都産大	184
	内田　明克	湧永薬品	181
	○金井　克志	大崎電気	192
	高木　俊二	日新製鋼	184
	若杉　正裕	久留米工大付高	180

○……女　子……○

・監　督　白神　邦雄（強化委員会コーチ群）
・コーチ　樫塚　正一（強化委員会コーチ群）
・マネジャー　高野亮（強化委員会コーチ群）
・選手

	氏名	所属	身長
GK	○矢部登茂子	ジャスコ	172
	○井村文光子	立石電機	170
	藤井美智子	日体大	170
FP	辻本　典子	ジャスコ	166
	山本二三代	ジャスコ	160
	山村　雅子	ブラザー工業	159
	竹内　保子	ブラザー工業	163
	○水上　清美	日立栃木	166
	木高　良子	日立栃木	175
	岩城　由江	日本ビクター	161
	薮田　典子	立石電機	165
	千原　彰子	大和銀行	170
	石井美沙子	大崎電気	167
	寺西富美枝	東京重機	169
	大崎　由季	日体大	167
	坂本由美子	東女体大	152

・○印はナショナルプレイヤー

「ハンドボール」
54年10月号（第179号）目次

【表紙写真】全日本—オーストリア女子、全日本はオリンピック予選を控え、激しい闘志をみせた。左はマークする加藤主将（9月2日・東京体育館）
【スポーツイベント社提供】

日本「本場の激しさ習得」を主眼

世界ジュニア選手権(男女)近ずく

第2回世界ジュニア選手権は、男子が10月23日から11月4日まで、デンマークとスウェーデンで、女子が10月15日から24日までユーゴで行われる。

初参加する日本は、1頁所報のとおり、代表メンバーが決定し、女子は10月7日、男子は16日それぞれ成田国際空港を出発する。

大会の話題などを探ってみよう。（杉山　茂）

◇2年ごとの開催　IHF（国際ハンドボール連盟）は、一昨年第1回大会を開いた時、この大会も、シニアや、オリンピック同よう4年にいちどと決めていた。

ところが、昨秋のIHF総会で各国から「2年にいちど」を望む声が強まり、即時、採決された。

主唱者はヨーロッパ勢で、本場のジュニア対策が、いかに組織的に整備され、若い時代から、国際経験を積ませようとしているかをうかがい知ることができた。

早速、開催地が募られ、男子はデンマークとスウェーデンの両国にまたがるという、これまでにない措置がとられ、女子はユーゴとハンガリーが名乗りをあげ、ユーゴに落ち着いた。

◇初参加する日本　日本は、第1回時、ほとんど執行部も強化サイドも、強い興味を示さずに、この大会を素通りさせた。

「ジュニアに対」する感覚が、外国勢とはまるで異なり、直言すれば、認識不足とさえいえた。

ところが、昨年の男女世界選手権で活躍した各国の若手が、ほとんど、ジュニア選手権出場者であったことや、ユーゴ女子が、第1回ジュニアの優勝メンバーを軸にして、みごとに、戦前不利の予想をくつがえし、モスクワ・オリンピック出場権を獲得したニュースなどで、強化関係者の目を見開かせた。

また、9月にワールド・ユースサッカー(東京)、12月に世界ジュニア・ボクシング（横浜）が、国内で開かれることが明きらかになり、世論のジュニアへの関心が高まったのも、見逃せない。

日本体協や、JOC（日本オリンピック委）も、ジュニア対策を重視するようになり、今回のハンドボールチーム遠征にも、男女各400万円強の補助を決めている。

◇大会の展望・男子　24カ国がエントリーしたが、本誌〆切り直前にスペインとアメリカの取り消しが発表され、チェコの追加出場が明きらかになった。つまり23カ国の参加。

前回は22カ国（うち棄権2）でほぼ同じスケール、大会は、5～6カ国づつ4組に分けて予選リーグそのあと、各組1、2位で「準決勝リーグ2組」、各組3、4位で「9～16位」、各組5、6位で「7～23位」を争うことになる。

予選リーグの組み分けは、別表のとおりで、日本は、善戦の期待できるB組に入った。

前回の結果をみても、シニアの強い国は、ジュニアも強く、Aクラスとみられるのは、東欧圏と北欧勢それに西ドイツだ。

日本は、ハンガリー、デンマークには苦しいだろうが、その他の3カ国とは互角とみていい。

ただ、フランス、フインランドは、将来へ向かって、かなり以前からジュニア、ボーイズの強化に力を入れており、フランスは前回12位に食いこんでいる。

木野監督、本田コーチは「順位より、一試合ごとに、本場の激しさを習得できれば……」と学習第一を口にしているが、狙いは、予選リーグでの2～3勝と「9～16位」か。

優勝争いは、B組からハンガリー、デンマーク、C組からソ連、西ドイツのベストエイト進出は間ちがいなく、A組はユーゴ、東ドイツ、ポーランドの大激戦。D組はチェコ、スウェーデンに、スイスのからむ混戦だ。

決勝カードの予測は、おいそれとできぬが、ソ連×東ドイツ、ソ連×ユーゴ、東ドイツ×ユーゴ、ダークホースに地元デンマークあたりとしておくのが無難。

なお、アジア地域から、台湾、サウジアラビアが参加しているがともに強敵揃いの組、善戦がせいいっぱいだろう。

◇大会の展望・女子　前回の14カ国より一つ少ない13カ国がエントリーしている。

これは、ルーマニア、チェコ、ポーランドらが参加を見送ったためで、やや淋しい。

初出場は日本、イタリア、アメリカの3カ国。

競技法式は、13カ国を3組に分け予選リーグ、各組上位2国のベストシックスによって「決勝リーグ」、その他の国で「7～13位」を争う。

日本は、ベストシックスを狙いたいところだが、ソ連、ハンガリーの強さには、よほどのことがない限り、一歩をゆずる。

両国の上位進出は不動だけに、西ドイツ戦で必勝を策し、その1勝を活かして、7、8位を目指すというのが、順当ではなかろうか。

「7～13位」へ廻ってくるのは日本、西ドイツのほか、オーストリア、オランダ、アメリカ、イタリア、フランスとみられ、9月来日したオーストリア関係者の話では「この顔触れなら日本有力」。

もちろん外交辞令もあろうが、「7位」はけして夢ではない。それだけに、予選での西ドイツ戦は重要。

大会前、西ドイツを転戦するそうだが、その交流が、はたして、よい目にでるか、裏目にでるかだ。

決勝リーグは、ソ連、ハンガリー、ユーゴ、ノルウェー、東ドイツ、デンマークの顔触れだろう。

ノルウェーに代ってフランスも考えられるが、いずれにせよ、ソ連、東ドイツ、ユーゴ、ハンガリー以外に優勝のチャンスはあるまい。

今春以来のジュニア・トーナメントの戦果からすれば、ソ連、ユーゴ、東ドイツが〃3強〃で、ソ連×ユーゴ戦の勝者が、栄冠を握りそう。

ダークホースは、シニア同ようハンガリー。

男女とも、日本の〝苦戦〟はまぬがれそうもないが、シニアとちがって、強国といっても選手の年令は自分たちと同じ、闘志を燃やして挑んで欲しい。

◇アフリカ勢の棄権　ところで前回、賑やかに登場してきたアフリカ勢が、今回は、男女とも1カ国も姿を見せていない。

11月または12月、アフリカ地域だけのジュニア選手権を開くためというのが〝棄権〟の理由だが、必しも、それだけではなさそう。

前回、チュニジアがイスラエルとの対戦を拒否して、IHFから「一年間資格停止」の処分をうけていることが、案外、影響しているのではないか。

ジュニア選手権は、その性格上参加国すべての順位を決めるのを内規としている。

男子でイスラエル、台湾のエントリーを知って、アフリカ勢が参加を見合せたのは、容易に想像できる。

日本女子関係者は、前回同ようコンゴが出てくれれば、来春の「モスクワ・オリンピック3大陸代表決定戦」を前に、かっこうの資料収集になったものを、と残念がる

◇日本のジュニア対策　このテーマは、大会終了後に、今後の課題として書くべきかもしれないが世界ジュニア選手権の〝定着〟によって、日本協会が常時参加を決めたなら、その対策も、組織をあげて、強固にすべきである。

今回の代表決定までの経過は、まったく円滑さを欠き、コーチングスタッフの言を借りれば「強化どころではなかった」。

IHFのジュニア規定は、今後も、おそらく男子は21才以下、女子は20才以下となろうから、日本協会も、これまでの「ヤング規程」にこだわらず、この年令に揃えるべきであろう。

今回は、どっちつかずのため、年令オーバーで、気の毒にも、中途半端に扱われてしまった女子選手が、何人かいる。

また、ジュニア強化は、強化部のナショナル対策と同一線上におくぐらいの気構えが欲しい。

仮にも、ジュニア問題を、全日本学連あるいは高校界にまかせたらといった姿勢は採るべきではない。

ヨーロッパ各国のジュニア（世界選手権）のメンバーは、ほとんど、ナショナルチームの監督、コーチ陣が選考している。

そうした体制があってこそ、初めてジュニアーナショナルの連結が可能である。

「今回は初めてとあって準備不足だった」と荒川理事長も、不備を認めているが、早々と、81年の第3回大会へのスタートを切って欲しい。

近着のユーゴ・スポーツ紙は「今回の代表は、ロスアンゼルス・オリンピックの各国の主力」と書き立てているが、もちろん、日本も例外ではない。

世界の広さ、激しさ、速さを肌にしみこませ、一廻りも、二廻りもたのもしくなったヤング・スターたちの帰国を楽しみに待ちたい

女子A組の陣容

近着の「ユーゴスラビア・スポーツ」紙による女子A組各国（日本の相手）のメンバーは、次のように予想される。

〔ソ連〕GKミトリューク、〇スパル、FP〇パルスチコーワ、ペトリューク、バガリカ、プロコピエーナ、プシュクラヤ、コロトコーワ、バレイエーワ、クドリアスチョーワ、サジトーワ、セミヤノーワ、カタルスキト、ケフェル（〇印は昨冬の世界選手権代表＝本誌調べ）

〔ハンガリー〕GKラクス、ギョギーサ、FPニアリ、レメレ、ゴンバイ、ヤコブ、アザライ、コンテイ、オルバン、ギョルジイ、オズワルド、ジボ、ラクス、コビリク、スザボ

〔西ドイツ〕GKゴッツ、FPプテン、フィッツ、ピエナー、ヨンソンニプス、コスター、ハース、シュミット、キプケミューラー。

世界ジュニア予選リーグ組み分け

〇…男子…〇

・A組
ユーゴ
東ドイツ
ポーランド
ノルウエー
台　湾

・B組
日　本
ハンガリー（10月23日）
デンマーク（10月24日）
フランス（10月28日）
ルクセンブルグ（10月25日）
フインランド（10月27日）
（　）内は日本の対戦日

・C組
ソ　連
西ドイツ
オランダ
アイスランド
サウジアラビア
オーストリア

・D組
チェコ
スウエーデン
スイス
イスラエル
ベルギー

〇…女子…〇

・A組
日　本
ソ　連（10月16日）
ハンガリー（10月15日）
西ドイツ（10月17日）
（　）内は日本の対戦日

・B組
ユーゴ
ノルウェー
フランス
オーストリア
イタリア

・C組
東ドイツ
オランダ
デンマーク
アメリカ

世界ジュニア参加を前に

男子チーム監督　木野　実

一、ＪＮＯ選考及合宿経過

強化委員会でリストアップされれ二十九名の選手が七月二十一日の常務理事会で承認され、早速七月末強化合宿をおこなった。比合宿の目的は、世界ジュニア大会のためだけでなし、あくまでも将来の全日本の柱となる選手を育成していくことにあり、その為基礎体力の養成はじめ、基本技術の習得特に、パス、キャッチの正確性、ステップ、フットワーク等の練習に重きをおいている。更に世界を相手にする者にとって精神的な強さが要求されますが、まずハンドボールを取り組む積極性のある姿勢がなければならないことは言うまでありません。従って、この段階では技術的、体力的に未熟であっても、意欲のある選手をとくに尊重していきたいと考えています

単独の合宿は始めてとあって、緊張の連続で、ぎこちなさが日についた。しかし朝霞の体育学校の規律ある生活の中で、教練等の指導をうける機会に恵まれ、チームに強い団結心が芽生えたのは、スタートとしてよかった。第二回は大崎電気の御好意により、精神的な強さを求めつつ、暑い中とくにグランドでここでも前回同様の目的でおこなったが暑さの為か日常の体力トレーニング不足のためかへばる者が目立ち、問題を残した

今後の練習過程においては、くり返しくり返しの練習の中で、一つ一つのプレーにより正確性と力強さを要求しつつすすめたければと思っています。各人の持っている良さをどこまで引きだせるか、責任を感じますが、あくまで基礎の上に立ってやっていきたいと考えています。

二、世界選手権の見通し予想

正直言って、世界二十四ケ国の参加チームの実力について皆目つかめていない。

わずかに西独の週刊紙等で西独と各国の対戦結果しか情報を得ていないので、どのあたりが目標かと聞かれても、返事に困ってしまう。各国ナショナルチームの現時点でのレベルからしか推測、判断できない。予選リーグでは、五ゲームのうち三勝はしたいと考えているが……。

日本としては世界と技術的、精神的にもさほど差はないと思われるので、欧州のパワー・ハンドボールにいかに早く順応し、それに対処できるかだと思う。その為、思い切りの良い、決断力のはっきりしたプレーから、自分自身で世界に通用できるプレーは何か、また今後自分に必要と思われるものは何かを、肌でハッキリつかんでくれればと思っている。どんな人が飛びでてくるか、楽しみのある大会である。

選手には、機会をみつけ、各国の練習はじめ、貪欲にハンドボールを吸収する様経験してもらいたいと願っており、その中から、今後の自分を見つめる材料を一つでも多く探してきてくれればと思う

三、今後の合宿

十月上旬大同特殊鋼で遠征メンバー十六名で合宿を行う予定にしている。

各連盟のリーグ等で十分な体制が整わないのは残念であるが、今回は全日本チームと合同で練習するので、難点である。スピード、テクニック等の技術的な問題をはじめ、学ぶ点が多く、貴重な、意義深い合宿になると思います。そして紅白ゲーム、全日本との練習ゲームの中で、序々にチームをまとめていきたいと考えています。

淡白といわれる最近若い人達のゲームではあるが、意欲、ファイトが表にでてこそ、うったえる、胸を打つプレーが生まれるわけで、このジュニアの中から、今の全日本をおびやかす選手が、とびでてくれることを願っているし、一人でも送りだしたいと思っています。

女子チーム監督　白神　邦雄

全日本ジュニアが決定されたのは非常に遅い時期にメンバー決定がなされた。その為過去の練習会は2回のみで終っている本格的練習は先日オーストリアチームとの対戦前の合宿であった。

女子に取って初めて本格的ジュニアチームの動きの中で今回遠征のに於いて我々の課題とは次の様な過程であろうか？

今大会参加の選手は非常に若かい年代層であり今後将来に於いて全日本メンバーとして多いに必要とされ、役立つ使命を重ねそなえていることを宿命とする人員。

そのメンバーの今回の課題は第一に出来るかぎり多くのゲーム経験を積み重ねること、第二に白分達の持てる力のレベルは世界の同世代の中でどの位の位置にあるか、将来日本の選手としてどの様な技術取得が本来必要であって不可能な技術取得、戦法の分析と同時にその環境によって生まれる条件の選択、理解等をふくめ世界の同世代のレベル確認、技術確認が今回の遠征に於いて最大の目標となろう要約すれば経験を第一とし次にレベルの確認、および技術可能な範囲の取得と考えられる。ハンドボール協会に於いては我々に要求されるものはもう少し多くハイレベルのもので有ろうと推測するが、残念ながら今回の遠征の事前の現状とは、各国の事前情報も参考資料も皆無でありジュニア参加国のリストが手渡されたのもすでに合宿も終り、出発二週間前である。又ジュニアメンバーの合同合宿、合同練習も少なく本格的な合同練習は、先日来日したオーストリアのヒポ銀行戦前に合同練習を行なったことが唯一の長期練習であった。この現状の中で我々が今回目標とすべきものは前記による方法であろうと考え、実行する覚悟であるさらに選手に期待する条件のねは遠征地に於いて全員が元気にトレーニングを積みゲームを真剣に取り組んで帰国することではないだろうかと考える。

この様な条件の中で現んに勝つことだけを選手に期待することはあまりにもカコクな要求ではなかろうか。なんとか六位以内をと思いながらの出発ではあるが…。

全日本男女、オリンピック予選へ自信

11月にせまったモスクワ・オリンピックアジア地域予選への総仕上げとして企画されたオーストリアシリーズは，男子ナショナル，同国女子ナンバーワン・ヒポバンク・セントボールテンHCを招いて9月1日から8日まで，全国各地を転戦して行われた。注目の全日本戦（男2，女1）は，日本側の完勝に終わり，オリンピック予選に明るい見通しとなった。オーストリア男子は2勝4敗，女子のヒポは2勝1分2敗。

オーストリアシリーズ終わる

男子

第1戦・三陽商会、三景連合軍との試合は、9月1日午後6時47分から東京・駒沢体育館で行われた。審判＝島田房二、後藤登。

オーストリア 26（16－7、10－12）19 三陽商会三景連合

	【連合】	得		【オーストリア】	得
GK	野田（景）	0	GK	ツオーニイ	0
	田村（陽）	0		ヘリッチュ	0
FP	関（陽）	7	FP	メイアーン	2
	金子（陽）	1		フブマン	3
	村田（景）	5		ケプリンガー	1
	鈴木（景）	3		ツアルツアー	2
	中馬（景）	1		ダンネマン	0
	山村（景）	0		グツィーク	6
	坪子（陽）	1		ブレッワル	4
	加藤（景）	0		ガンゲル	7
	地主園（景）	1		ラインバッハー	0
	鵜沢（陽）	0		ゾウクプ	1
		19	（2）PT（4）		26

（注）陽は三陽商会、景は三景所属を示す。

○…三陽三景混成チームは、全日本選手の関を中心に村田・鈴木・中馬の多種多採なプレーでゲームを組み立てていった。

前半は村田の巧みなパスワークで関のジャンプシュートがオーストリアGK・H・ヘリッチュの足元に決まり、防御では金子、関などの硬いディフェンスも田村の好守もあり優位にゲームを進めた。

しかし、後半オーストリアは、三陽・三景の早い動きに慣れたせいか、T・ガルガンが連続4得点を重ねた。

後半10分過ぎ、ツアルツアーのサイドシュートが決り、同点としたオーストリアは、三陽・三景のミスもてつだって、優位にゲームを展開していった。

この試合で大熊（三陽）の欠場はおしまれるが、地主園の思い切り良いプレーが光っていた。（福本　弘・元全日本選手）

全日本、前半で主導権

第2戦・全日本との1回戦は、2日午後4時16分から「第22回NHK杯国際」として、東京体育館で行われた。審判＝斉藤稔、千野恒夫

全日本 31（20－11、11－5）16 オーストリア

	【オーストリア】	得		【全日本】	得
GK	ツオーニイ	0	GK	福井（湧永）	0
	ヘリッチュ	0		岡部（大崎）	0
FP	フブマン	1	FP	津川（湧永）	4
	ケプリンガー	1		斉藤幸（大崎）	3
	ガンゲル	3		大原（大同）	6
	ツアルツアー	2		蒲生（大同）	8
	グツィーク	3		関（三陽）	2
	ダンネマン	2		穂積（湧永）	1
	ラインバッハー	2		池ノ上（湧永）	2
	メイヤー	0		斉藤将（湯沢ク）	1
	ゾウクプ	0		中本（大同）	0
	ブレッフ	2		山本（湧永）	4
		16	（4）PT（2）		31

○…全日本が、内、外と攻め分けるのに対し、オーストリアは、がっちりした体軀を使ってのカットイン、ポストプレーが主武器。

すべり出しは、五角だったが、オーストリアは3－5のあと、二本つづけて、「チャージング」をとられ、すっかり、リズムを狂わしてしまった。

トップチームならば、一つのプレーを封じられても、次の手があるが、残念ながらオーストリアは二の矢、三の矢に、日本ディフェンスを切り崩すだけのスピードがない。

勢いづいた全日本は、津川の好リードから面白いように蒲生、大原らがゴールを奪い、前半で、勝負のメドをつけた。

後半も同じような展開だったがオーストリアは、GK岡部にノーマークを再三捌かれるなどもあって、闘志をなくし、散発的にポイントしたにとどまった。

オーストリアとしては、序盤でのレフェリングに、こだわりすぎて、自からの型で攻めこむことができなかったのが敗因だ。

竹野奉昭・全日本男子監督の話

今春の遠征で負けこしているので、どうしても勝ちたかった。

オーストリアの攻撃は、単調にみえたかもしれないが、これは、むしろ全日本の守備力向上を評価して欲しい。特に、相手ポストマンのマークは、ほぼ完ぺきに出来ていたと思う。

日新、惜しくも敗れる

第3戦・日新製鋼（広島）との試合は、4日午後6時35分から広島・呉市立体育館で行われた。審判＝東昌弘、荒谷拓三

オーストリア 24（11－6、13－15）21 日新製鋼

	【日新】	得		【オーストリア】	得
GK	三田	0	GK	ツオーニイ	0
	筒本	0		ヘリッチュ	0
FP	泉	3	FP	フブマン	3
	脇若	3		ケップリンガー	1
	洞ケ瀬	2		ツアルツアー	2
	徳田	4		ダンネマン	1
	大庭	2		グツィーク	6
	下茂	6		ブレッフル	1
	吹上	1		ガンゲル	7
	森	0		ラインバッハー	2
	湯中	0		ゾウクプ	1
	日野	0		メイア	0
		21	（3）PT（6）		24

○…日新が下茂のPTで先行、オーストリアもすぐにグツィークのPTでタイ。日新は、速攻と早い動きで、相手ディフェンスの間からシュート、これがよく決まった。オーストリアは、体力を活かしたカットインで応酬。

2点差を追う後半のオーストリアはGKヘリッチュの好守で、日新の追加点を最少限におさえながら、反撃の態勢をととのえ、20分フブマンのシュートで初の2点差25分には23－20とした。日新も粘り26分脇若で21－23、さらにPTを得たが、相手GKの美技に防がれ、ここで、勝負が決まった。

第4戦・湧永薬品（広島）との試合は、6日午後6時30分から広島県立体育館で行われた。審判＝平田幸男、東昌弘

湧永薬品 20（13―10、7―3）13 オーストリア

得	【湧永】		【オーストリア】	得
0	福井	GK	ヘリッチュ	0
0	今井	GK	ツオーニイ	0
3	津川	FP	グツイーク	4
3	松本	FP	メイアー	1
3	山本	FP	ゾウクプ	0
4	穂積	FP	ケプリンガー	1
0	志賀	FP	ツアルツアー	1
2	藤本	FP	ダンネマン	3
0	木野	FP	ブレッフ	1
0	戸田	FP	ガンゲル	1
3	生駒	FP	ラインバッハー	1
2	池ノ上	FP	フブマン	0
20	（1）	PT	（2）	13

○…オーストリアは、ガンゲルのゴールで好スタートを切ったがこの日も攻撃が一本調子。リードを拡げられぬ間に、湧永の松本、山本らの巧技をうけて、逆転された。

後半、オーストリアも意地をみせ、20分11―14とし興味をつないだが、湧永は穂積、池ノ上、生駒が豪快に決め、突き放した。

なお、試合前、木野、今井両ベテランが、この日で現役活動に一区切りをつけることが発表された。

全日本、好調に2連勝

第5戦・全日本との2回戦は、7日午後7時26分から大阪市中央体育館で行われた。審判＝光島磯雄、狩野幸介。

全日本 24（11―5、13―10）15 オーストリア

得	【全日本】		【オーストリア】	得
0	福井（湧永）	GK	ヘリッチュ	0
0	大畑（本田）	GK	ツオーニイ	0
0	津川（湧永）	FP	フブマン	1
2	斉藤将（湯沢ク）	FP	ツァルツアー	1
1	斉藤幸（大崎）	FP	グツィーク	4
5	大原（大同）	FP	ブレッフ	1
2	穂積（湧永）	FP	ガンゲル	4
7	蒲生（大同）	FP	ラインバッハー	2
3	柳川（大同）	FP	ケプリンガー	2
3	志賀（湧永）	FP	ダンネマン	0
1	関（三陽）	FP	ゾウクプ	0
0	辻本（イーグ）	FP	メイアー	0
24	（1）	PT	（1）	15

○…全日本が、蒲生、大原などでポイントすれば、オーストリアも幅のある攻撃から、グツアークの変化技を主に得点、26分11―9ともつれた。

このあと、全日本は、柳川が得意の速攻で連続ゴール、13―9としたのが大きかった。

後半、オーストリアは、2分PTで11―13、ようやく日本のレフェリングにもなれ、そのあとの展開に興味をもたせたが、自信たっぷりな全日本は4、5分蒲生、そのあと志賀の3連続ゴールで、あっという間に18―11と大量差をつけ、オーストリアをねじ伏せてしまった。

このあたりのたたみかけは、みごとなもので、11月のオリンピック予選を前にして、ファンに好印象を与えた。

竹野・全日本男子監督の話　蒲生に加えて、池ノ上、志賀ら若手の大型選手が伸びてきたのは心強い。アジア予選まで、合同練習の機会が少ないのが気がかりだが、今回の2連戦で、チームとしてのまとまりは、すっかり出来たと思っている。

大同、後半一気の猛攻

第6戦（最終戦）・大同特殊鋼（愛知）との試合は、8日午後6時から名古屋の愛知県体育館で行われた。審判＝森、川島

大同特殊鋼 22（9―7、13―6）13 オーストリア

得	【大同】		【オーストリア】	得
0	柳川兄	GK	ヘリッチュ	0
0	大園	GK	ツオーニイ	0
3	蒲生	FP	ケプリンガー	8
5	中井	FP	フブマン	0
0	中本	FP	ツアルツッー	2
5	大原	FP	ダンネマン	0
2	花輪	FP	ブレッフ	0
1	柳川弟	FP	グツィーク	1
0	松原	FP	メイアー	0
1	藤中	FP	ゾウクプ	0
3	浦田	FP	ラインバッハー	2
2	小野	FP	ガンゲル	0
22	（3）	PT	（1）	13

○…「西ドイツに引き分けたクラブ」として、オーストリアは大同の実力を知っていたが、反面「なんとか勝とう」とする意欲にもそれはつながっていた。

大同は、そのオーストリアの機先を制するかのように、立ちあがり、花輪、大原らが、立てつづけにポイント、3―0。その後も手をゆるめず攻めたてた。

湧永以外ほとんど国内に敵のない大同の、国際試合にかける意気ごみは、いつもながら凄い。

ア選手権と五輪予選は同一編成で

日本協会は、今秋11月、南京で行われる第2回アジア選手権（1～11日）と、台湾で開かれるモスクワ・オリンピックアジア地域予選（17～23日）に派遣する全日本男子代表チームを、同一メンバーとすることに決めた。

今春来、日本協会は、両大会に別々のチームを派遣する〝二つの全日本〟構想を進めていたが、予想以上に、両大会の間隔があいたこと、両国への同一メンバー入国の見通しがついたこと、アジア選手権にもベストメンバーを送るべきだ、という意見が強まったため方針を変えたものである。

代表メンバーは、10月下旬（注・女子は11月上旬）に発表される予定だが、団長として荒川清美日本協会理事長、監督に竹野奉昭、コーチに東嘉伸の三氏が決まった

オーストリアは、来日以来初めてケプリンガーがよく当り8ゴールをあげたが、速攻、スカイプレーなど多彩なプレーを示す大同にディフェンスがゆさぶられ、勝機をつかむまでに至らなかった。

女子

第1戦・大崎電気(埼玉)との試合は、9月1日午後7時59分から東京・駒沢体育館で行われた。審判＝大塚文雄、佐分正典

ヒポバンクHC 22（11－3, 11－2）5 大崎電気

【ヒポバンク】	得		【大崎】	得
ボック	0	GK	中島	0
イスパノービッチ	0	GK	藤村	0
ライテラー	0	FP	西	0
ホーリイ	7	FP	陽田	0
シコーラ	4	FP	石井	1
ピネド	2	FP	大場	3
アーネスタッド	4	FP	佐々木	0
ゲバウア	5	FP	徳渕	1
シモン	0	FP	根間	0
ドンハウザー	0	FP	江島	0
シーナー	0	FP	宮嶋	0
デイ	0	FP	渡部	0
	22（5）	PT		（0）5

○…オーストリアは、E・ホーリイを中心に、G・ゲバウアの長身選手をポストに置いての単調な攻撃であった。しかし大崎のディフェンスでの当りが弱いこともありオーストリアに着々と得点を重ねられてしまった。

大崎電気の選手全員が国際試合初めてのこともあり、又得点源である西の故障も加わり、オーストリアディフェンスを突破できずに苦しんでいた。しかもオーストリアの大型中央ディフェンスに対して最後まで中央攻撃をしたことも敗因となろう。

終盤になって大場のシュートが決まり出したが、焼石に水といった感じさえうけた。このプレーが前半に発揮され、縦の速い攻撃をしかけていれば、もっと良いゲームが出来たのではないかと思われる一戦だった。

（福本）

調子上向きの全日本

第2戦・全日本との試合は「第22回NHK杯国際」として、2日午後2時32分から東京体育館で行われた。審判＝佐分正典、大塚文雄

全日本 21（11－8, 10－5）13 ヒポバンクHC

【ヒポバンク】	得		【全日本】	得
ボック	0	GK	山本(ブラ)	0
イスパノービッチ	0	GK	矢部(ジャ)	1
ホーリイ	6	FP	加藤(ビク)	4
アーネスタッド	2	FP	松下(ジャ)	2
ピネド	1	FP	穂積(ビク)	0
ゲバウア	4	FP	中川(ブラ)	1
デイ	0	FP	河田(ジャ)	4
ドンハウザー	0	FP	島田(日立)	4
シコーラ	0	FP	金田(ジャ)	1
セドラク	0	FP	小島(ビク)	3
ライテラー	0	FP	染谷(ビク)	1
シーナー	0	FP	宮平(ブラ)	0
13	（4）	PT	（3）	21

○…韓国戦雪じょくという十字架を背負う全日本。

2月の東ドイツ戦をみるかぎりチームとしてのまとまりもなく、不安な要素が極めて多かったが、この日の試合ぶりは、たとえ相手が単独クラブにせよ、来日前、名だたる強豪を集めての国際大会に優勝、しかも主力は元ポーランドのホリイ、ボック、元ノルウェーのアーネスタッド、現スペインのピネド、現オーストリアのゲバウア、デイ、それに、驚くなかれ、かつてのユーゴの名GKイスパノービッチまでも加えた〝国際チーム〟。8点差の快勝は、コーチングスタッフならずとも、思わず、胸をなでおろすものであった。

勝負を分けたのは、明きらかにスピード差。池田監督は、韓国のスカウトを意識して、ほとんどフォーメーションらしいプレーを使わずに臨んだが、その切れ味は、鋭いものがあり、ヒポ守備陣は、前後半とも、15分を過ぎると、完全に走り負けた。

個々の選手では、河田、島田のパワーアップが、やはり注目された。この二人の〝安定〟が本モノなら、むしろ、モントリオールに出た全日本より、スケールという点では、しのぐことも期待できる。

GK陣も、山本、矢部とも無難で、矢部は、後半、起用されるなり、遠投でゴールを奪うほどの試合度胸をみせた。

ヒポ銀行は、さすがに個人技は、光るものがあり、特に、ホリイの上下の射ち分けは、みごとだったが、惜しいかなスピードに欠けた。注目のイスパノービッチはポジションのとりかたなど流石と思わせたものの、やはり、年令（36才）はかくせず、甘い失点が多かった。

池田鉄哉・全日本女子監督の話

守りで小さなミスはあったが、なんとか、韓国と戦えるメドが立った。選手が自信を回復してくれれば、それで充分な試合だ。

日立、ヒポの追いこみかわす

第3戦・日立栃木（栃木）との試合は、4日午後6時から日立栃木体育館で行われた。審判＝山下勝司、高橋隆夫。

日立栃木 20（10－11, 10－5）16 ヒポバンクHC

【ヒポバンク】	得		【日立】	得
ボック	0	GK	寺沢	0
イスパノービッチ	0	GK	斉藤	0
ホーリイ	8	FP	吉田	3
シコーラ	1	FP	島田	5
ピネド	3	FP	山戸	0
ゲバウア	1	FP	大輪	6
デイ	1	FP	箕輪	0
アーネスタッド	1	FP	小根沢	0
シーナー	0	FP	水上	4
シモン	1	FP	毛塚	0
ドンハウザー	0	FP	大高	0
ライテラー	0	FP	沖山	2
16	（5）	PT	（4）	18

▽このほかの出場者【日】FP上田（得0）

中国のIHF加盟促進をAHFが要望

【速報】AHF（アジア・ハンドボール連盟）は、9月28日からクウェートで理事会を開き、IHF（国際ハンドボール連盟）に対し中国の加盟を促進するよう要望することになった。

この会議には、IHF理事でもある渡辺和美AHF理事も出席している。

◇

今月末、名古屋でのIOC（国際オリンピック委）理事会を前に、中国の〝積極的な動き〟が、ハンドボール界にも及んでいることを示すニュースだ。

中国は、本誌既報のとおり7月、IHFへ加盟申請書を送っている。IHFは8月の理事会で協議はしたものの〝形〟になる決定をしていない。

中国主流のAHFは、そのあたりを突いて、今回のような要望を出したものだろうが、IOC理事会しだいでは、IHFへの加盟が早まり、モスクワオリンピックへの参加さえ、現実となることも考えられる。

渡辺理事は、この点を否定しているが、日本協会・荒川理事長は、〝警戒〟を強めはじめている。なお、AHFはパレスチナのIHF加盟承認も望んでいる。（杉山）

○…前半の日立は実に快テンポ5分2－2のあと、大輪がPT2本を含む3ゴールで5－2、さらに11分吉田、12分島田が追い討ちをかけた。

ヒポは、ゲバウアの早射ちもあり、簡単に相手ボールとしてしまい、しかも、疲れから、守りが乱れた。

後半、今度は日立の守りが雑になり、ヒポはホリイのPTピネドの巧技などで激しく追いあげ、いちちは3点差となったが、前半のリードに余裕をもつ日立は、吉田水上らの追加点で、なんとか逃切った。

〝銀行同士〟ヒポに軍配

第4戦・大和銀行（大阪）との試合は、7日午後4時から大阪市中央体育館で行われた。審判＝新村理文、井上真也

ヒポバンクHC 22（8－4、14－6）10 大和銀行

得	【ヒポバンク】		【大和】	得
0	イスパノービッチ	GK	丸山	0
0	ボック	GK	茂利	0
1	ドンハウザー	FP	宮本	0
7	ホリイ	FP	富家	4
2	シコーラ	FP	増永	2
7	ゲバウア	FP	米山	1
3	アーネスタッド	FP	西田	1
0	シーナー	FP	千原	1
0	デイ	FP	若杉	0
1	シモン	FP	東木	0
1	ライテラード	FP	戸田	0
0	ピネド	FP	中川	1
22	（4）	PT	（1）	10

○…大和が、3分富家のゴールだけに終っている間に、ヒポは、アーネスタッドの強引なプレーとホリイの巧技などで着々と得点、15分5－1とした。

大和は16分PTで2点目をあげたが、すぐあと、2点を奪われ20分7－2、後半開始直後、ヒポはゲバウアの2ゴールで10－4とがっちり主導権を握り、その後も順調に加点した。

ジュニア、貴重な引き分け

第5戦（最終戦）・全日本ジュニアナショナルとの試合は、8日午後4時52分から愛知県体育館で行われた。審判＝稲石三二、奥村方志

全日本ジュニア 15（6－9、9－6）15 ヒポバンクHC
引き分け

得	【全日本】		【ヒポバンク】	得
0	矢部（ジャ）	GK	ボック	0
0	井村（立石）	GK	イスパノービッチ	0
4	辻本（ジャ）	FP	シコーラ	1
0	岩城（ビク）	FP	アーネスタッド	1
5	水上（日立）	FP	ホリイ	9
2	山本（ジャ）	FP	シーナー	0
1	薮田（立石）	FP	ゲバウア	2
1	寺西（重機）	FP	ライテレル	0
2	山村（ブラ）	FP	シモン	0
0	大高（日立）	FP	デイ	1
0	石井（大崎）	FP	ドンハウザー	0
0	大崎（日体大）	FP	セドラク	1
15	（3）	PT	（6）	15

○…世界ジュニア（1～5頁参照）を前にした全日本ジュニアにとって、貴重な引き分けだった。

前半の全日本は、雰囲気にのまれたのか、まったく動きが悪く、ベテラン揃いのヒポは、容しゃない攻撃を仕掛けた。

このあたりの展開は、いかに、ハンドボールは、キャリアがモノをいうスポーツかを示すものであった。

ところが、後半になると、全日本の若さが、よい方へ発揮された辻本の大たんに射つロングで、点差が縮まりはじめると、にわかにチーム全体の動きがよくなり、エース格の水上が、鋭いシュートをきめて、追撃をはじめた。

逆にヒポは、ベテラン揃いのせいか、しだいに押され気味となり最後は引き分けに持ちこむのがやっと。オーストリア・ジュニアに選ばれているセドラク（16才）だけが、一人最後まで気を吐いていたのが目についた。

白神邦雄・全日本女子ジュニア監督の話　ぶっつけ本番のようなチームで、よく引き分けられたと思う。これで急に、世界ジュニアへの見通しがつくものでもないがともかく、チームとして、かっこうだけは、つきそうだ。

モスクワ・オリンピック
アジア予選IHF公報

—境井秀三—

国際ハンドボール連盟(IHF)からモスクワ予選(アジア)について次のとおりの公式通知が入ったので、その全文を紹介いたします。

同通知のバーゼル（スイス、IHF本部所在地）発、年月日は一九七九年九月二十五日付で、日本韓国、台湾各協会あてに送付されています。

◇　◇　◇

件名　アジア大陸男・女チームのオリンピック予選大会について

拝啓

私どもの一九七九年三月十五日付の公示にもとづき、次のアジア大陸の協会が一九八〇年オリンピック大会の男子および女子予選大会参加のエントリーをした。

台湾ハンドボール協会
日本ハンドボール協会
韓国ハンドボール協会

初めクエートハンドボール協会がエントリーをしたが、後に一九七九年八月十四日付文書でエントリーを取り下げた。また、カタールハンドボール協会のエントリーはこの国が自国のオリンピック委員会を持ってないという理由でIHFとして受理できなかった。

IHF理事会の決定に従い男子および女子のこの予選大会は一九七九年十一月十七日から二十三日まで台湾の高雄および台北で行なわれる。

私どもは台湾ハンドボール協会のこの行事のための準備作業と組織化に対し感謝するとともに、上記各国協会をここにこの予選大会に参加されるよう御招待申し上げます。

IHF組織・大会委員会は次のとおりの試合スケジュールを作成した。

11月17日於高雄
女子・韓国対台湾
男子・日本対台湾

11月18日於高雄
女子・韓国対日本
男子・台湾対韓国

11月19日於高雄
女子・日本対台湾
男子・日本対韓国

11月21日於台北
女子・台湾対韓国
男子・台湾対日本

11月22日於台北
女子・日本対韓国
男子・韓国対台湾

11月23日於台北
女子・台湾対日本
男子・日本対韓国

▽試合は「アディダス」製の公式IHFボールで行なわれる。

▽男子大会の優勝者はモスコーでの一九八〇年第12回オリンピック大会参加の資格をえる。

女子大会の優勝者は一九八〇年三月ブラザビル（コンゴ）でのアフリカ・アジア・アメリカの3大陸代表による3大陸予選に出場資格をえる。

▽この大会の公式IHF代表として会計フレヅランド・ペダーセン（デンマーク）およびIHF理事会メンバー（一名）およびアジア大陸代表渡辺和美が任命された。

また、IHF競技規則・レフェリー委員会はレフェリーとして次の者を指名した。

エドガー・ライシエル、ウイルフリード・テテンス（共に西ドイツ）
カール・オロブ・ニルソン、ラルス・エリック・ジエルスミル（共にスエーデン）

▽経済条件に関しては次のとおりの合意に達した。

一、参加チームは旅行、宿泊および食事の一切の費用を負担する。

二、台湾ハンドボール協会は管理費および台湾内の一切の輸送の費用を払う。

二、IHF役員および指名レフェリーの旅費および滞在費は3参加国協会で分担される。

より以上の詳細を示した招待状は参加チーム、役員およびレフェリーに台湾ハンドボール協会より送られる。

この大会の良好な展開を行なうため、参加国は全ての通信をスムースに行なうよう願ます。

最後にこの予選大会が全参加者にとってフェアーな試合であり、我々スポーツの良きパブリシティ（宣伝）であれという私どもの願を表明します。

敬具

国際ハンドボール連盟
会長ポール・ヘグベルグ
理事長マックス・リンケンバーガー
アジア大陸代表渡辺和美
専務理事F・ペップマイヤー

◇　◇　◇

なおこの予選大会独自の技術規程は送られてきていないが、世界選手権大会等で適用されている順位決定方法は次によっているので参照して下さい。

1、順位決定はポイント数の加算により行なう。ポイント数は次のとおり。
勝試合　2ポイント
引分試合　各チームに1ポイント
負試合　0ポイント

2、もし2又はそれ以上のチームが同じポイント数ならば、関係チーム間で行なわれた試合結果のみにより順位が決められる。

3、それでもなお2又はそれ以上のチームの順位が決まらない場合順位はゴール差で決められる。

ゴール差は引き算方式で計算される。

4、それでもなお2又はそれ以上のチームが同じゴール差を持つならば、より高い得点数が順位を決める。

5、それでもなお2又はそれ以上のチームの順位が決まらない場合順位はくじで決められる。くじはチーム代表立会いのもと、IHF代表により行なわれる。（日本協会国際渉外担当常務理事）

ア選手権は8ケ国か

日本協会が有力筋から得た情報によると、11月1日から南京で行われる第2回アジア選手権(男子)の参加国は、日本、中国、クウェート、インド、イラク、朝鮮民主々義人民共和国(北朝鮮)、アラブ首長国連邦、パレスチナの8ケ国で、韓国の顔は見えない。

日本協会専門委員会だより

国　際

かねてから話題の45秒ルールは、ユーゴスラビアのプラで行なわれたトレーナー・レフェリーシンポジウムに於て広く討議されたトピックであった。

このシンポジウム開催中に同地で行なわれた〝ユーゴスラビア杯〟では、45秒ルールが採用され、大会参加6チーム（ユーゴスラビア・ソ連・東独・ポーランド・ルーマニア・スエーデン）は、制限された時間内で攻撃を行なった。

この大会以前からソ連チームだけは、国内大会でこの45秒ルールによりプレーしているので、ソ連チームにとってはそれほど困かしいルールではなかったと思われるが、他の国のチームやレフェリーにとって、多くの問題点を残すルールだったことはやむをえないことと思われる。

この実験的ルール改正には多くの様相と関心が集められた。

このルールの支持者は、活動性及びダイナミックさが増大した点を賞賛したが、一方ゲームの局面があまりにも白熱しすぎ、不ユ快なシーンが増加する点に危惧の念を持つ人もいた。

またある人は、この45秒ルールの導入により、レフェリーが技術的に過重な負担を要求される点に関心を示していた。

一つ確かなことは、この論争は責任ある機関が最終的な結論を出す前に、ひんぱんにかつ長期にわたって討論されなければならないということである。（国際協会広報No.128／129より）

この45秒ルールの詳細については、ユーゴスラビアのプラで行なわれたＩＨＦ・レフェリーとトレーナーシンポジュームに参加した安藤純光（日本協会常務理事、競技部長）により、機関紙上で報告される予定です。

この45秒ルールは、今年のユーゴスラビア杯で実験的に採用されたルールであり、モスクワオリンピックまでは現行のルールで進められることがＩＨＦで決定されているので、モスクワオリンピックで45秒ルールを採用することはない。

しかし、ソ連の国内大会でこのルールが採用され、ユーゴ杯で実験的によせよ採用されたいま、モスクワ後を考えると、日本も今から45秒ルールの検討を加えていく必要があろう。

企　画

前・後期の日本リーグ・インターハイ・教職員・中学大会・東日本インカレの各種大会を視察して大いに感じるものがあった。

日本リーグの各地会場の中で、特に感じたことは、ゲームを盛り上げるために、応援指導をした浦和会場関係者のアイデアだった。

都市対抗、高校野球、アメグラサッカーの国際試合迄には及ばなかったものの、各高校のハンドボールマン達を、両チームに分けての鳴物入りの応援合戦は、プレーとの異和感もなく、見る者を楽しませしかも、プレーヤーを引き立てているようさにえ感じた。

又、神戸会場では、今流行のインベーダーゲームを採用し、小中学生の多くをこのゲームに参加させて、笑いの渦を巻き起した。

大分会場では、チビッ子ペナルティースローコンテストを行って会場を盛り上げた。

特筆されることは、このゲームに、チームのゴールキーパーのエースを登場させたことである。

このことは、チーム関係者が、只単に、勝敗のみに囚われることなく、日本リーグを、より発展させようとする地元大会運営者のアイデアに積極的に協力したからに違いない。

更に中学大会を、日本一を誇る中大体育館で開催したのはヒットだった。

未来を担うハンドボールマンが広大な四面ものコートの中で建築のモダンさにも負けないほど、高度なテクニックを駆使してのスピードに富んだ。しかもスリルのあるゲーム内容は、明日のハンドボール界の飛躍を約束してくれるかのようであった

大会ラツシュ期の終末第一回の東日本インカレは、札幌で開催され大成功を収めた。

財源の乏しい、北海道学連と協会が、この大会を開催するために打ち立てたプランと実行こそは、現在企画部で考えているジャパンカップ実現の為の示唆と勇気とを与えてくれた。

過去、学校体育の範ちゅうの中で、堅実に地味に育って来たハンドボール界が、今後、大衆の中に深く浸透し大きく根を張るために成さねばならないことは日本協会と地方協会、更に各全国連盟が一体となってナショナルチームの一大飛躍に借しみなく助力することだろう。

このほか、西ドイツシリーズ、オーストリアシリーズを前にして商業紙「スポーツイベント」の展開したPR特集も、この夏、印象に残るものであった。（北川勇喜）

日本協会加盟団体リポート

全日本自衛隊連盟

当連盟の最大イベント・第11回全日本自衛隊選手権を、10月27日と30日の両日東京・駒沢体育館で開く。

これまでの大会は、すべて上半期に開かれていたものだが、今年初めて、秋に大会を移した。

各チームの事情、日本協会登録との関連などが、主な理由だが、今回、成果があれば、来年以降もこのスケジュールでいきたい。

今回の大会は、いわゆる自衛隊日本一を決めるチャンピオン・シップがメインであることは、もちろんだが、そのほか、これまでの少年の部、女子の部のほか、初めて東京トーナメントと男子壮年の部を併催する。

東京トーナメントは、日本協会登録チームによるチャンピオン・シップ以外のチームによるものでいわば2部トーナメント、壮年の部は、そろそろ、自衛隊チームにも、OBが出はじめたことによるもので、35才以上の選手による大会としたい。（もちろん、この年令の選手が、チャンピオン・トーナメントに出場しても、さしつかえない）、

チャンピオン（選手権）をめぐってのトーナメントは、日本リーグ2部に所属する勝田（陸・茨城）を有力候補として、ライバル・下総（海・千葉）、宮崎国体出場を決めている小松島航空隊（海・徳島）らが有力とみられている。

しかし、近年、各チームのレベルはめざましいものがあり、有力とみられるチームも、楽観は許されない。

自衛隊ハンドボール界の発展のためにも、是非、多くのかたがたのご来場、観戦をお願いするものです。

▽第11回全日本自衛隊選手権（チャンピオン・トーナメント）組み合せ。

・1回戦（イ）勝田×八戸、（ロ）三宿中央病院×久里浜、（ハ）霞ケ浦×福島、（ニ）小松島×神町、（ホ）徳島×東立川、（ヘ）古河×岩国、（ト）東千歳×木更津、（チ）春日井×下総、

・準々決勝　（イ）×（ロ）、（ハ）×（ニ）、（ホ）×（ヘ）、（ト）×（チ）

▽女子の部申しこみチーム、三宿中央病院、市ケ谷、

▽少年の部申しこみチーム　武山少年工科学校、江田島少年術科学校、熊谷航空生徒隊

▽東京大会申しこみチーム　宇都宮、仙台、千僧、岩手

なお、試合スケジュールは、27日が午前10時から開会式のあと、10時30分から競技を開始する。

27日は、選手権は1、2回戦まで、東京大会は1回戦を終了、30日は、選手権の準決勝が午前11時決勝が午後1時10分の予定。女子の部決勝と少年の部決勝は、いずれも午後2時20分、東京大会決勝は午前10時とスケジュールしている。

全日本学生連盟

先月号当欄でご紹介した全日本学生選抜東西対抗（男子第29回、女子第11回、ジュニア男子第2回同女子第1回）の結果を、お知らせします。

大会は、9月15日午前11時から名古屋市体育館で行われ、学生界のトッププレイヤーを網らしての4試合とあって、千五百人をこすファンでにぎわった。

▽男子

東　軍 20（10－6 / 10－3）9 西　軍

（東軍の2連勝、通算東軍の18勝11敗）

○…西軍は、小林（大体大）のサイド攻撃で先行、幸先よいスタートを切った。

東軍は日体勢で先発したが、動きが悪く、押し気味ながら、なかなかペースを奪えなかった。

西軍小林（大体大）が開始早々サイドシュートを決め、好ダッシュを見せ、実力的にかなり差があると見られたこのゲームのムードを一変させた。

東軍は日体大のメンバーでスタートしたが、動きが悪く、思うようにリード出来ず、西軍は素晴らしいプレーが続き、一進一退のゲームとなった。

しかし前半の中途から、武藤（早大）、坂本（日体大）の速攻が決まり、結局10－6と東軍リードで前半が終った。

後半に入ってからの西軍はゴールキーパー中尾（大経大）の好守が光り、東軍をジリジリと追いつめあと一歩という所まで来たが、東軍山口のパスカットからの速攻でゲームが決った。

西軍にとっては勝てるゲームを落した感じだろう。（I）

▽女子

東　軍 21（9－9 / 12－5）14 西　軍

（東軍の4連勝、通算東軍の9勝2敗）

○…東軍有利といわれた戦前だったが、前半は、大いにもつれた

これは、東軍が速攻のコンビネーションが、もう一つ合わず、もたついたためだ。

結果からすれば、この間に、西軍は、もっと、つけこんでおくべきだった。

しかし、東軍は、少々リードされても余裕があり、それが、後半の一気の引きはなしに実った。

東軍は、東女体大勢の走りにエンジンがかかると、西軍ディフェンスに立ち直るいとまを与えずたたみかけ、点差を開いた。

西軍も、コンビネーションプレーでなんとか食い下ろうとするのだが、結局は、つねにいわれるとおりのスピード差が敗因。（U）

▽男子ジュニア

東　軍 24（15－10 / 9－11）21 西　軍

（1勝1敗）

▽女子ジュニア

東　軍 10（2－4 / 8－3）7 西　軍

日本協会ニュース

招待、遠征相つぐ活発な事業

◇オーストリアチームの来日

二月の東ドイツ女子、七月の西ドイツ男子各ナショナルナームの来日に続いて、去る八月二八日オーストリアの男子ナショナルチームと同国女子チャンピオン、ヒポバンクが来日し、東京ほか各地で男子六戦、女子五戦の親善試合を行ない、九月九日全員無事に成田の新東京国際空港から飛びたちました。

八月三一日来日の予定だったのが、その一〇日前になって急に三日繰上げて訪日したいという電報が入りました。予定したアエロフロートの予約がとれなかったという理由でしたが、来日の際も変更になった選手団のメンバー表も持参してなかったり、そのズサンさに驚かされたものですが、とにかくウイーン駐在の高松君（日本協会海外駐在代表）を通じて、日程の確認やら余計な滞在期間の滞在費の負担等についての交渉をし、当初の予定の日程が非常に過酷だったため通常の倍額のポケットマネーを放棄するという条件で変更増になった三日間の滞在費を日本側で負担する（金額的にはほぼトントン）ことになり、最初の四日間のホテルはシングルの部屋にエキストラベットをつけてツイン風にし、外人には大分窮屈なのをがまんしてもらいました。

滞在期間が長かったために、練習場の世話、観光案内などいろいろありましたが、今回は、本誌編集嘱託の田代嬢とその友人の上智大生吉本嬢が本来の通訳の仕事のほかに、栃木、京都、広島と大選手団を引率してくれて、夏場で手薄の日本協会役員の穴埋めを奉仕的にやってくれました。

東ドイツ、西ドイツの場合と違ってレセプションも内輪で小じんまりとやろうと考えていましたが自衛隊学校で合宿中の男子ナショナル選手達がかけつけてくれて〝絶唱〟の交歓などがあり、前半ののんびりした日程と様変りの後半の強行日程にも拘らず、大変なご機嫌で成田を発って行きました。

◇海外遠征目白押し

来たる一〇月には女子ジュニアナショナルと男子ジュニアナショナルが相次いでジュニア世界選手大会に、それぞれユーゴとデンマークへ、男子ナショナルも一一月上旬のアジア選手権大会に中国へ引続いて一七日から台湾において行なわれるアジア予選に男子ナショナルが参加します。

◇来年度事業計画の決定

企画部の中心に来年度の事業計画をまとめています。来年度はモスクワ・オリンピックの年でもあり、財団法人設立の作業にも着手しなければなりません。現在の日本協会最後の年をオリンピック入賞で飾りたいものです（大野金一）

昭和54年度
JHAレフェリーコース報告
日本協会審判委員会

若い優秀な審判技術をもつレフェリーの養成を目的とした、このコースも第3回を迎え35名の申込みがあり、前後期通して出席した者は、22名であった。

「コースの内容」

教　科

前期
- ハンドボール競技規則
- 審判に関する留意事項Ⅰ・Ⅱ
- 複審制に関する規範
- 審判技術（判定・動き・態度などの実態）
- 競技の運営
- 日本ハンドボール協会公認審判員規定

後期
- スポーツにおけるレフェリーのあり方
- 審判技術（判定・態度・動きなどの実際）
- 外国語（英・独・仏のいずれか　Ⅰ）

◆前期『**ハンドボール競技規則**』（佐野・嶋田審査委員、斉藤規則研究委員）

競技規則の1―1から17―26まで解説。特にレフェリーは第6条相手に対する動作の所を繰り返し読み理解することが大切なことである。

『**審判に関する留意事項**』（佐野審査委員）

レフェリーは競技規則を全部知っていてもいい笛は吹けない。競技規則に精通している事と共に、それをどのように適応していけば選手や観衆に信頼されるか、ゲームが終った後、勝った方も負けた方も「あぁいいゲームだったなあ」と思うような笛を吹くためには……。

『**複審制に関する規範**』（片瀬審査委員）

2名のレフェリーのコンビの問題、任務の尊重の問題がゲームをスムーズに運営されるもとであるそのために2名でよく話し合う事が必要である。

『**外国語の学び方**』（光島国際審判員）

英・独語による競技用語の解説と外国語を如何にしたらマスターできるか、自らの体験を通して……。

『**実技研修**』

◆後期『**審判員規定**』（片瀬審査委員）

各級審判員の資格。上級申請の仕方。全日本大会審判員の決定方法。また国際審判員になるためには、どうすれば資格を取得できるか。

『**映写**』

外国人のIHF公認審判員の笛と動きについての研究。

『**スポーツにおけるレフェリーのあり方**』（佐野審査委員）

◦審判員の存在意義について
◦審判員に必要な具体的条件について
◦審判員と競技者と観客の関係
◦イギリスとアメリカのスポーツの相違点とハンドボールの関係。

（岡本審査委員）

◦審判をするにあたって具体的事例と諸注意。
◦近代ハンドボールの傾向と笛の吹き方。

『**ハンドボール、レフェリーに必要な英語の素養**』（久田氏）

◦競技用語を話し書けるようにする。
◦英語の競技規則書の読解
◦国際試合等で、レフェリーとして、場面、状況に応じた問題に対して、英語で説明できるようにする。

『**実技テスト**』

受講生が、各々ゲームのレフェリーをつとめ、各審査委員より講評を受けた。

本年度のレフェリーコースの内容は大体以上の通りであった。尚本年度受講生の特徴としては、第1回の受講生平均28才に対し26才合格者は第1回の平均30才に対し27才と、レフェリーコースの目的である若い優秀なレフェリーの発掘に年々成果をあげている。レフェリーコースは55年度まで、35才未満までが、受講資格があるが、56年度より25才未満と若くなり、このコースの目的が、いちだんと達せられるよう若い諸君に奮気を期待したい。

『**実技テストの総評**』（入江審査委員長・岡前審判委員長）

今回、受講した諸君は、このテストの合否にかかわらず、各都道府県に帰った時には、今回ここで新しい勉強をしたことを誇りにし、この経験を生かし、自信を持って指導的立場に立ってもらいたい。そして常に謙虚な気持で、今後共よい笛が吹けるよう努力、研究してもらいたい。

今回共通した欠点を指摘してみると、

①ジェスチュアーと方向指示は適確に、

プッシングとチャージングの反則は同じジェスチュアーで表現するが、方向指示が不明確だと、どちらのボールかわからない。

②両レフェリーの任務とコンビの問題

ゴールレフェリーが、反則の笛を多く吹くのは、あまりよくないお互いに任務を尊重して、またゴールレフェリーが反則をとった場合には、センターレフェリーが、ポイントの指示をするというコンビが大切である。

③ラフプレーが十分にとり切れていない。

④ゲームを運行する技術のテクニック

笛の強弱、長短、タイミング、方向指示などが、また未熟である

◆『**合格者**』レフェリーコースの合格者には、B級の資格を9月1日付をもって与える。

柳原　勉（愛媛）倉本積一（奈良）藤原仁志（秋田）遠藤正伸（新潟）長友正憲（宮城）西園友秀・小山哲央・三浦久司（以上愛知）

明後年にIHF審判会議

IHF(国際ハンドボール連盟)は、このほど、一九八一年の「IHFレフェリーコース」を、同年8月15日から22日まで、オーストリア（ウイン近郊）で開くことを正式に決めた。

また、「IHFレフェリー&トレーナー・シンポジウム」は、一九八一年五月スイスで行われることが内定した。

大同特殊鋼優位で終盤へ突入

～日本リーグ後期始まる～

女子はビクター、ジャスコの激突

第4回日本リーグ（男女1部）は、9月15日四日市市で、後期レースの幕をあけ、いちだんと激しい順位争いを演じながら、いよいよ終盤12試合（10月）を残すだけとなった。

男子は、各カード2回戦のカードとなり、大同特殊鋼（愛知）がいぜん好調に、白星を重ね、8戦土つかず。追う湧永薬品（広島）も、1敗（8勝）で大同にピタリと食いついてはいるが、大同が日新戦（10月21日）を落とさぬ限り、大同戦（28日）で勝利をあげても、得失点差で及ばぬという不利な戦況になっている。

3位争いは、26日のイーグルス×本田技研戦が大きなヤマ。

一方、女子は、予想どおり、日本ビクター(茨城)、ジャスコ（三重）が抜け出し、ジャスコが、10月6日のブラザー戦に勝てば、28日の両雄対決となる。

3位以下は、立石電機（熊本）が、九州シリーズを負け越したため、ブラザー工業(愛知)、日立栃木（栃木）との激戦が、最終日まで、もちこまれそう。

なお、9月30日の沖縄大会は、台風16号の影響で、10月21日に延期された。

後期第1週

◇第1日▽9月15日（四日市市体育館　観客一千）

▽女子

ジャスコ　24（15―7／9―6）13　日立栃木

立ち上がり日立はよく動いて3点を連取し好調なすべり出しを見せたが、ジャスコは河田による連続得点等でたちまち同点とする。14分にはジャスコ・山本が速攻を決め、これにより初めてリードを奪いリズムに乗って6点を連取、前半を15―7とした。

後半に入っても、ジャスコは攻撃の手をゆるめず、松下のPT等で更に4点を連取して、勝負を決めた。日立は攻撃の要である・島田がジャスコのきついマークにあいながらもよく健闘したが、及ばなかった。

得	【ジャ】		【日立】	得
0	山本	GK	寺沢	0
0	矢部	GK	斉藤	0
0	平田	FP	古田	2
4	松下	FP	島田	5
0	林	FP	山戸	0
4	金田	FP	大輪	1
1	横山	FP	箕輪	0
6	河田	FP	小根沢	0
0	笠	FP	水上	3
2	若田	FP	毛塚	0
5	山本	FP	大高	0
2	辻本	FP	沖山	2
24	（2）	PT	（0）	13

（審・川島・森）

▽男子

本田技研鈴鹿　22（13―13／9―8）21　日新製鋼

本田は矢部のシュートで先制したが、日新は泉が3点を連取してリードを奪い、日新のペース展開となる。一方の本田も佐藤を中心に個人技で応戦、同点のまま後半に入る。

後半に入っても日新は早い動きで相手ディフェンスのミスを透い絶えずリードを奪っていたが、本田は21分田上のPTによる得点で初めてリードを奪い返えし、29分過ぎに田上が速攻をものにし、迫いすがる日新を振り切り、1点差で逃げ切った。日新は非常に惜しい試合を逸したが、そのチーム力ははっきりと向上のあとを示し3強へ迫っていることを示した。

得	【本田】		【日新】	得
0	柴田	GK	三田	0
0	大畑	GK	筒本	0
5	田上	FP	泉	6
6	佐藤	FP	徳田	3
3	喜井	FP	大庭	3
1	豊岡	FP	吹上	1
3	佐々木	FP	洞ケ瀬	0
4	矢野	FP	脇若	5
0	西田	FP	森	0
0	髙橋	FP	下茂	3
0	吉山	FP	湯中	0
0	谷元	FP	日野	0
22	（3）	PT	（0）	21

（審・浅田・吉田）

◆第2日▽9月16日（神戸市中央体育館・観客一千）

▽女子

北国銀行　11（4―4／7―2）6　大崎電気

立ち上がり1分、3分とエース千歩のロングシュートが決まり北国は好調なスタートをきる。一方の大崎もサイドシュート、カットインから相手ディフェンスの乱れに乗じてPTをものにし互角で前半を終了。

後半、北国は大崎の攻撃が止ったのを機に、ポスト、速攻等で着々と加点し勝利を手中にした。北国・千歩のロングシュートが光ったゲームであった。

得	【北国】		【大崎】	得
0	酒谷	GK	中島	0
0	髙橋	GK	藤村	0
1	庄田	FP	西	1
2	中山	FP	陽田	1
2	木田	FP	佐々木	0
0	木戸	FP	石井	1
6	千歩	FP	大場	3
0	木内	FP	徳渕	0
0	八木	FP	江島	0
0	西出	FP	渡部	0
0	坂	FP	根間	0
0	宮西	FP	宮嶋	0
11	（0）	PT	（1）	6

（審・狩野・光島）

▽男子

大同特殊鋼　30（14―4／16―10）14　大阪イーグルス

得	【大同】		【イグ】	得
0	柳川兄	GK	広川	0
0	大園	GK	本田	0
5	中井	FP	高橋	5
0	松原	FP	原野	1
1	花輪	FP	足羽	0
2	柳川弟	FP	大西	1
9	大原	FP	橋本	2
3	中本	FP	河原崎	0
7	蒲生	FP	福井	1
1	東谷	FP	辻本	2
2	小野	FP	三谷	1
0	桐山	FP	千野	1
30	（2）	PT	（1）	14

（審・新村・新井）

男子勝敗表（9月30日まで）

	大同	湧永	イー	本田	日新	三陽	試	勝	分	負	残
大同特殊鋼	……	○	○○	○○	○	○○	8	8	0	0	2
湧永薬品	●	……	○○	○○	○○	○○	9	8	0	1	1
イーグルス	●●	●●	……	○	●	○○	8	3	0	5	2
本田技研鈴鹿	●●	●●	●	……	○○	○	8	3	0	5	2
日新製鋼	●	●●	○	●●	……	●	7	1	0	6	3
三陽商会	●●	●●	●●	●	○	……	8	1	0	7	2

大同は、エース蒲生、大原を中心に力強い多彩な攻撃展開で終始圧倒。イーグルスは大同の厚いディフェンスの前に歯が立たず、苦しいゲームで最後までチャンスらしいものをつかめず後半10ゴールを奪ったのが慰めだった。

▽同（水海道二高体育館）

▽女子

日本ビクター　14（6―5／8―6）11　ブラザー工業

前半立ち上がりからビクターはスピードある強引なプレーからPTをものにし、一方のブラザーは

宮平・中川の切れの良いプレーで一点を争う好ゲームとなる。

	【ブ工】	得	【ビク】	得
GK	山本	0	鈴木	0
GK	尾比久	0	坂巻	0
FP	吉原	0	加藤	0
FP	竹内	0	小島	5
FP	則武	0	染谷	2
FP	増永	0	伊藤	0
FP	宮平	2	岩城	0
FP	植田	2	池田	3
FP	山村	4	寺村	1
FP	中川	3	村上	0
FP	宮本	0	高橋	0
FP	尾崎	0	穂積	3

14（7）PT（3）11

後半立ち上がりブラザーは、ビクターのシュートミスからの速攻で4点を連取し、9−6と3点をリード。これで一気に波に乗るかと思われたが、ブラザーは10分、13分とたて続けに退場者を出し、これに乗じてビクターは2本のPTと穂積、小島のシュートにより逆転、その後も更に2本のPTを決める等してゲームを決めた。

全般的に両チーム共にPTが多くディフェンスの甘さが目立ったゲームと言えよう。

女子勝敗表（9月30日まで）

	日ビ	ジャ	日立	ブ工	立石	大崎	北国	大和	試	勝	分	負	残
日本ビクター	……		○	○	○	○	○	○	6	6	0	0	1
ジャスコ		……	○		○	○	○	○	5	5	0	0	2
日立栃木	●	●	……	●		○	○	○	6	3	0	3	1
ブラザー工業	●		○	……			○	△	4	2	1	1	3
立石電機	●	●			……	●	○	○	5	2	0	3	2
大崎電気	●	●	●		○	……	●	○	6	2	0	4	1
北国銀行	●	●	●	●	●	○	……		6	1	0	5	1
大和銀行	●	●	●	△	●	●		……	6	0	1	5	1

▽男子

湧永薬品 26（11−8 15−9）17 三陽商会

	【三陽】	得	【湧永】	得
GK	吉近	0	福井	0
GK	田村	0		
FP	関	7	津川	5
FP	金子	2	穂積	1
FP	梅屋	0	藤本	0
FP	坪子	3	志賀	0
FP	稲木	0	戸田	4
FP	三上	2	松本	4
FP	石原	1	山本	7
FP	鵜沢	1	原田	0
FP	大熊	1	生駒	0
FP	尾形	0	池ノ上	5

（審・岡本／斉藤）

26（4）PT（1）17

前半開始早々、三陽は湧永のディフェンスのコンビの乱れに乗じて、石原・関らのシュートにより4点を先取したが、湧永の足をつかった攻撃に三陽のディフェンスも乱れ、津川、穂積らのカットインによる得点で8分過ぎには同点とし、その後本来の調子を取り戻した湧永のペースで試合が展開。後半に入ってからは、両者共にミスに乗じての得点が多く、結果、湧永の個人技プラス速攻と三陽・関のロングシュートがポイントとなったゲームであった。

後期第2週

◇第2日▽9月23日（大分県総合体育館、観客一千三百）

▽女子

ジャスコ 15（8−6 7−6）12 立石電機

	【立石】	得	【ジャ】	得
GK	丸山	0	山本	0
GK	井村	0	矢部	0
FP	紀野	6	平田	2
FP	桑原	1	松下	0
FP	亀園	1	林	2
FP	是枝	0	金田	0
FP	姫野	1	横山	0
FP	羽立	1	河田	6
FP	橋ノ口	0	若田	1
FP	福永	0	山本	4
FP	藪田	2	辻本	0
FP	喜久山	0	宮崎	0

（審・近藤／松尾）

15（2）PT（4）12

ゲーム開始直後に立石は紀野のシュートが決まり、先行したが、ジャスコは、松下、山本、河田と連続4点、8分すぎには4−1とリードを奪う。立石もまた、得点のと切れたジャスコのスキをうまく突いて、紀野・桑原・藪田と3点を連取し、15分には4−4の同点とした。その後は文字通りシーソーゲームとなり会場を大いに沸かせた。

後半に入ってからも双方互いに譲らず激しい攻防が繰り広げられたが、10分過ぎから波に乗り出したジャスコが5点を連取、そのまま主導権を握り、リーグ5連勝を飾った。

立石・紀野の健斗が光ったが、やはりチーム力から言ってジャスコの方が一枚上であった。

▽男子

湧永薬品 32（16−6 16−12）18 大阪イーグルス

	【イグ】	得	【湧永】	得
GK	広川	0	福井	0
GK	本田	0	大城	0
FP	高橋	7	津川	6
FP	源野	1	穂積	6
FP	足羽	0	藤本	1
FP	大西	1	志賀	1
FP	橋本	2	戸田	3
FP	福井	2	内田	0
FP	辻本	5	松本	4
FP	三谷	0	山本	4
FP	勝本	0	生駒	3
FP	千野	0	池ノ上	4

（審・森／島田）

32（4）PT（3）18

立ち上がり双方共にGKの好守にはばまれ無得点のまま4分過ぎに湧永・生駒がシュートを決め均衡を破る。その後イーグルスも橋本のサイドシュートにより得点を返えし、ようやく双方共に波に乗り出した。20分過ぎまでは互角にゲームが進められ観客を大いに沸かせたが、その後湧永は津川・戸田らが得点を連取して、4点のリードで後半に折り返えした。後半に入っても湧永は着々と得点を重ね、一方のイーグルスは逆に萎縮した様になり、シュートを数多く離つが湧永CK福井の好守にはばまれ得点できず、結局、中盤からの湧永の猛攻で大差のついたゲームとなってしまった。

しかし、イーグルスはGK本田の好守と速攻につながるうまいボール出しと、新人辻木の良くコントロールされたシュートが光っていた。

◇第2日▽9月24日（熊本市体育館・観客三千）

▽女子

日本ビクター 16（8−7 8−5）12 立石電機

	【立石】	得	【ビク】	得
GK	丸山	0	鈴木	0
GK	井村	0	塙	0
FP	姫野	1	加藤	6
FP	桑原	4	穂積	4
FP	亀園	1	小島	6
FP	紀野	2	染谷	0
FP	是枝	0	伊藤	0
FP	羽立	1	池田	0
FP	橋ノ口	0	寺村	0
FP	福永	0	村上	0
FP	藪田	3	高橋	0
FP	喜久山	0	志村	0

（審・福田／松尾）

16（2）PT（2）12

ビクターはゲーム開始から15分までに、加藤・穂積・小島らにより5連続得点を含む7得点を上げる。一方その間立石は、シュート数も少なく、わずかに藪田・羽立・紀野と3点を上げたにとどまった。以後ゲーム終了まで着実に加点するビクターは終始主導権を握り、この試合まで無傷で来たチーム力を発揮、見事5連勝を飾った。

立石は、走力、コンビネーションプレーなどの不足もあり、エース紀野も充分な体調でゲームに臨むことができず、苦戦を免れなかった。

▽男子

湧永薬品 27（15−10 12−7）17 日新製鋼

	【日新】	得	【湧永】	得
GK	三田	0	福井	0
GK	筒本	0	大城	0
FP	泉	1	津川	8
FP	徳田	1	穂積	2
FP	大庭	3	藤本	0
FP	吹上	1	志賀	0
FP	洞ケ瀬	1	戸田	3
FP	脇若	0	松本	3
FP	森	3	山本	1
FP	下茂	1	原田	0
FP	湯中	1	生駒	7
FP	高木	5	池ノ上	3

（審・島田／森）

27（6）PT（2）17

湧永は立ち上がりから、生駒・池ノ上らの若手を中心にロングシュート、PTなどにより着実に得点を重ね、またGK福井の好守も光り日新のシュートをよく抑え、20分過ぎには9—3と完全に主導権をものにした。

後半に入ってからは日新も気を取り戻し大庭を中心に加点しよく健闘したが、それに輪を掛けた湧永・津川らのタイナミックなシュートや戸田・松本らの速攻により次第に点差は開いていった。

この試合、湧永は津川・生駒とでPTを含め、実に15点をたたき出している。

▽第2週つづき（9月22日、宮城県スポーツセンター＝詳報未着）

▽女子

日立栃木 23（14—3, 9—5）8 大和銀行

▽男子

大同特殊鋼 28（13—9, 15—10）19 本田技研鈴鹿

▽同（9月23日、花巻市民体育館＝詳報未着）

・男子

大同特殊鋼 32（13—7, 19—9）16 三陽商会

・女子

大崎電気 17（7—5, 10—6）11 大和銀行

後期第3週

▽第1日▽8月29日（京都府立体育館、観衆一千）

▽女子

日立栃木 13（6—4, 7—3）7 北国銀行

得	【日立】		【北国】	得
0	寺沢	GK	酒谷	0
0	斉藤	GK	高橋	0
1	沖山	FP	庄田	1
4	吉田	FP	中山	0
3	島田	FP	本田	0
0	山戸	FP	千歩	2
3	大輪	FP	木内	0
0	箕輪	FP	八木	3
0	小根沢	FP	西出	1
2	水上	FP	坂	0
0	大高	FP	宮西	0
0	上田	FP	川本	0
13	（2）	PT	（1）	7

（審・福井、吉田）

2勝目の欲しい日立。五分にこぎつけたい北国。ともに落せぬ一戦とあってもつれた。

先手は、北国が6分八木でとり20分近くまでリードを奪っていたが、日立は19分吉田で3—3のあと21分島田、22分吉田が連続ゴール、逆に先行しはじめた。

後半、北国の粘りが期待されたが、10分までに放った5本のシュートが、ことごとくはずれ、一方日立は水上、大輪らが追加点、10分10—4と開いて、大勢が決まった。北国の不振というより、日立の好テンポが目立った。

▽男子

湧永薬品 36（17—9, 19—12）21 本田技研鈴鹿

得	【湧永】		【本田】	得
0	福井	GK	柴田	0
0	大城	GK	大畑	0
7	津川	FP	田上	1
4	穂積	FP	佐藤	9
1	戸田	FP	喜井	3
3	松本	FP	豊岡	4
5	山本	FP	佐々木	1
4	生駒	FP	矢野	0
2	藤本	FP	西田	0
1	志賀	FP	松本	0
1	原田	FP	谷元	0
8	池ノ上	FP	高橋	3
36	（4）	PT	（6）	21

（審・丸岡、藤本）

本田が上位というより、優勝を果たすためには、どうしても湧永大同を倒さなければいけない。

その意味で、つねに、この二カードは、期待を集めるのだが、そのたびに〝失望の結果〟となる。

攻守にいいものを持ちながら、本田は、どうして勝てないのだろう。本田が勝てば、日本リーグは面白くなり、リーグの人気自体さえ上がろう。

この試合も、15分7—4、20分12—6と開いて、あっけなくファンの望みを絶ってしまった。

後半も、いきなりPT3本を含む8失点、10分25—10では、最後まで見ていろ、というほうがムリだ。個々の選手のカラーでは、6チーム中最高と思えるのに。本田の奮起を、宮崎国体、全日本総合にかけたい。

（高槻市・竹田正義＝投稿）

◇第2日▽9月30日（富山市体育館、観衆＝千八百）

▽女子

日本ビクター 20（5—6, 15—7）13 大崎電気

得	【日ビ】		【大崎】	得
0	鈴木	GK	中島	0
0	塙	GK	梅野	0
4	加藤	FP	西	1
5	穂積	FP	陽田	2
2	小島	FP	石井	0
1	染谷	FP	大場	6
1	伊藤	FP	徳渕	1
4	池田	FP	江島	0
2	寺村	FP	根間	2
0	村上	FP	宮嶋	1
0	高橋	FP	宮本	0
1	志村	FP	嘉本	0
20	（2）	PT	（0）	13

（審・徳前、村井）

ビクターは前半まったく精彩を欠き、再三のシュートも、詰めの甘さがあってゴールを奪えなかった。

大崎は、相手の不振をついて、元気に走りまわり、特に20分すぎ4—5から大場の連続ゴールで逆転したあたりは、鮮やかだった。

後半も、ビクターはなかなか本調子にならなかったが、8分寺村のゴールで10—9としたあたりからスピードが出て、そのあとは一気に大崎を押しつぶした。

▽男子

大阪イーグルス 26（12—9, 14—9）18 三陽商会

得	【大阪】		【三陽】	得
0	本田	GK	吉近	0
		GK	田村	0
6	高橋	FP	関	0
2	源野	FP	金子	2
0	足羽	FP	梅屋	1
4	大西	FP	坪子	1
0	橋本	FP	稲木	1
2	河原崎	FP	三上	3
1	福井	FP	石原	1
10	辻本	FP	鶴沢	3
0	三谷	FP	尾形	0
1	勝木	FP	大熊	6
26	（0）	PT	（0）	18

（審・山口、田嶋）

入れ替え戦をまぬがれるためには両チームとも、この一戦が一つのヤマ。気負ってのスタートだったが、大阪が、組織力を活かそうとするのに対し、三陽は、個々の突進が目立ちすぎた。

大阪のGKは、元全日本、いまでも国内トップの力がある本田だ。そこのところを考えれば、力にたよる単身攻撃は、拙い手段。

大阪は、前半20分11—6と開く好ペース、後半10分18—13と優位をキープしたあと、ダメ押しの3ゴール、勝負を決めた。

新人・辻本（全日本）のダイナミックな攻撃が光った。

来年の日本リーグ1回総当り

日本リーグは、オリンピックイヤーの来年「第5回日本リーグ」を、男女とも1回総当りで行うことに内定した。正式には、10月7日の運営委常任委員会で、まとめられよう。

10月のスケジュール

・10月6日（土）
（女）ジャスコ—プラザー（14：00静岡草薙）
三陽商会—本田技研（15：20 〃 ）
イーグルス—日新製鋼（15：30大阪長野）

・10月21日（日）～9月30日延期分～
（女）立石電機—プラザー（13：30沖縄奥武山）
日新製鋼—大同特殊鋼（15：00 〃 ）

・10月26日（金）
本田技研—イーグルス（17：00大阪中央）
（女）大和銀行—北国銀行（18：20 〃 ）

・10月27日（土）
（女）日立栃木—立石電機（14：00呉市立）
日新製鋼—三陽商会（15：10 〃 ）

・10月28日（日）＝最終日
（女）プラザー—大崎電気（13：00名古屋市体）
（女）ビクター—ジャスコ（14：10 〃 ）
湧永薬品—大同特殊鋼（15：20 〃 ）

2部は大崎と東京重機

日本リーグ男女2部は、男の残り7試合、女子各カードの2回戦を「後期」として、9月22、23、24日の3日間、名古屋のブラザー工業体育館で行われた。

男子は、すでに上位2チームが決まり(本誌第176号)、3位以下の順位争いが焦点となったが、トヨタ車体が手固く3連勝、3位を決めた。

注目の自衛隊勝田は、前期の元気がなく、Aクラス入りを逃した。

大崎×三景の〝決勝〟は、大崎が後半立ちあがりの連続得点で勝負を決め初優勝。

女子は、前期トップのムネカタが、今回も東京重機戦で先手をとり優勝を手にしたかとみえたが、重機は鮮やかな逆転勝ち、ともに3勝1敗で並び、得失点差から東京重機の初優勝となった。

男女とも一・二部入れ替え戦は、12月22、23日大阪市中央体育館の予定。

▼第1日(9月22日)

▽男子

トヨタ車体(愛知) 20(10―7 10―8)15 自衛隊勝田

△得点者▽【ト】荻原6、宮松5、高橋、羽立各3、大塚2、山田【自】藤枝、額賀各6、斉藤2、小松1。

○…前半10分トヨタがムラのない攻撃で5点を入れたのに対し、勝田はPTの2点だけ。そのあとの展開も、ほとんど同じようなもので後半15分15―8と開いて、大勢が決まった。

セントラル自動車(神奈川) 14(8―5 6―8)13 日鉄建材(大阪)

△得点者▽【セ】加藤6、谷中3、佐藤2、日野、小野、鮫島各1、【日】池田6、若本4、玉嶋、清原、外山各1。

○…残り14分13―13からセ自動車は小野が貴重な1点をあげ、これが決勝点。日鉄は後半10分7―11からの反撃も空しかった。

▽女子

東京重機(東京) 27(12―2 15―4)6 和歌山県商工信用組合(和歌山)

△得点者▽【野】沖山11、鈴木8、古谷4、寺西2、川本、森田各1【和】清水、奈手各2、遠藤、山本各1。

○…重機の一方勝ち。和歌山は40本をこすシュートを射ちながら力強さに欠けた。

▼第2日(9月23日)

トヨタ車体 18(10―4 8―7)11 セントラル自動車

△得点者▽【ト】宮松7、大塚3、山田、萩原て羽立各2、牧、横尾各1、【セ】加藤4、谷中、鮫島各2、中村、小野、小山各1。

○…トヨタは前半、宮松の4本のPTで優位に立ち、後半も慎重な攻守をみせた。セ自動車は、実力以下の試合ぶり。

自衛隊勝田 22(10―11 12―10)21 日鉄建材

△得点者▽【自】額賀8、斉藤5、大坂間3、藤枝、高岡、鈴木各2、田【日】若本7、池辺6、清原3、玉嶋、外山各2、素原1。

○…日鉄は前半26分9―10から2点を奪い逆転、うまく波にのるかとみえたが、勝田は後半すぐ再逆転、10分17―13とした。日鉄も残り4分20―20と粘ったが、勝田はここで2点連取、逃げ切った。

▽女子

ムネカタ(福島) 17(9―3 8―2)5 和歌山県商工信用組合

△得点者▽【ム】物井5、米野4、清水3、水野、岡部各2、大河原1、【和】清水2、塩崎、遠藤、蒲田各1。

○…和歌山は前半12分3―4と食い下ったが、そのあと30分間無得点、ムネタカを楽にさせた。

▼第3日＝2部最終日(9月24日)

▽男子

トヨタ車体 27(14―4 13―10)14 日鉄建材

△得点者▽【ト】萩原7、羽立、山田各5、横尾3、大塚、宮松、高橋各2、牧1。【日】若本7、池辺4、清原2、外山1。

○…勝てば3位のトヨタが立ち上りからスパート、快勝した。

自衛隊勝田 21(10―7 11―11)18 セントラル自動車

△得点者▽【自】藤枝9、額賀5、鈴木4、高岡、斉藤、大坂間各1【セ】鮫島8、加藤、小野各3、日野、谷中各2。

○…前半残り2分7―7から勝田が3ゴール、この差が勝負を分けた。セ自動車は、僅かな破たんで試合を失ってしまった。

大崎電気(埼玉) 22(11―9 11―7)16 三景(東京)

【大崎】	得		【三景】	得
岡部	0	GK	野田	0
原田	0	GK		
斉藤	8	FP	加藤	1
橋本	1	FP	鈴木	2
新田	3	FP	山村	1
長野	5	FP	島中	0
椿原	3	FP	地園(主)	3
佐伯	2	FP	村田	7
上里	0	FP	中馬	2
金井	0	FP	吉近	0
松岡	0	FP		
東江	0	FP		

(審・北山 大原)

22 (2) PT (3) 16

○…ともに入れ替え戦出場権を握って一安心とはいえ、往年の名門同士、火花が散った。

序盤は大崎が押し気味、しかし三景も村田の巧技、PTで追いあげ22分8―6と逆に先行した。ところが大崎の反撃に守りが乱れ、あっさり主導権を奪い返された。後半は大崎の一方的ともいえる展開、15分18―11と大勢が決まった。

ムネカタ、逆転負け

▽女子

東京重機 12(4―6 8―5)11 ムネカタ

△得点者▽【重】鈴木7、沖山2、寺西、川本、宮田各1 【ム】清水6、物井3、岡部、石田各2

○…11―11から重機はタイムアップ寸前のPTを沖山がみごとに決め、逆転優勝となった。

終始、ムネカタ先行で進み、後半20分10―8とした時は、勝利不動とみえたが、重機は20分10秒鈴木、23分寺西でタイ、24分沖山で逆転した。ムネカタも奮起、24分35秒石田で11―11、スリリングな試合とし、2部の最終戦らしい盛りあがりをみせた。

▼個人得点ベストスリー(PT点を含む、非公式)▽男子①斉藤(大崎)41②額賀(勝田)34③鈴木(三景)30▽女子①沖山(重機)21鈴木(重機)20③物井(ムネ)18。

2部男子勝敗表

	大	三	ト	勝	セ	日	P
大崎	…	○	○	○	○	○	10
三景	●	…	○	○	○	○	8
トヨ	●	●	…	○	○	○	6
勝田	●	●	●	…	○	○	4
セ自	●	●	●	●	…	○	2
日建	●	●	●	●	●	…	0

同女子勝敗表

	重	ム	和	P	得	失
重機	……	●○	○○	6	73	40
ムネ	○●	……	○○	6	68	39
和信	●●	●●	……	0		

下松（山口）、鶴城（熊本）が優勝

全国中学校大会

第8回全国中学校大会は、八王子市にある中央大学体育館において、8月21～23日の3日間、全国の各ブロックから選ばれた男女32チームにより行なわれた。

男子は、中国ブロック代表山口県下松中学校が、2年連続優勝をねらう東京・拝島中学校を破って初の栄冠に輝やいた。

女子の決勝は、一昨年の第6回大会で優勝している熊本鶴城中学と山口、岐陽中学の対戦となったが、鶴城中学が、粘る岐陽中学をしりぞけた。

◆男子1回戦

蓮田（埼玉）16（8－3、8－7）10 操南（岡山）
生駒（奈良）16（9－5、7－4）9 釧路（北海道）
神森（沖縄）14（5－5、9－5）10 加納（岐阜）
拝島（東京）23（10－2、13－2）4 潟東（新潟）
下松（山口）23（9－2、14－5）7 紫電（香川）
御幸（石川）21（8－6、13－8）14 茎崎（茨城）
松橋（熊本）15（9－5、6－8）13 丸山（兵庫）
南稜（愛知）17（6－8、7－4、5－1）13 郡山（福島）

▽同準々決勝

蓮田 14（7－6、7－7）13 生駒
拝島 19（7－7、12－9）16 神森
下松 15（5－4、10－5）9 御幸
南稜 15（8－4、7－5）9 松橋

▽同準決勝

拝島 19（6－9、9－6…4－3）18 蓮田
下松 20（10－3、10－8）11 南稜

▽同決勝

下松 17（8－4、9－5）9 拝島

得	【拝島】		【下松】	得
0	宇田川	GK	斉藤	0
0	海賀	GK	谷	0
2	江沢	FP	山本	6
0	山口	FP	岡	3
3	目黒	FP	前田	4
0	豊川	FP	清木	0
2	市村	FP	藤嶋	0
1	郡司	FP	中野	1
1	佐々木	FP	諏訪	3
0	浜川	FP	弘中	0
0	津田	FP	岡	0
0	黒川	FP	棟居	0
9（0）		PT		17（0）

（審・大塚、清水）

○…出足から速攻、遅攻共にコンビネーションがよくとれ、着実に加点してゆく下松中に対して、拝島中は下松中の厚いディフェンスを仲々破ることが出来ず、前半苦戦を強いられた。

後半に入りペースを取りもどしかけた拝島であったが、下松中のするどい攻撃は止むことを知らず17－9で下松中の優勝となった。

下松中は優勝チームにふさわしい、攻守のバランスが取れた好チームだった。（平岡秀雄）

◆女子一回戦

鶴城（熊本）14（5－0、9－0）0 紫雲（香川）
大平（栃木）10（6－3、1－4、3－2）9 加納（岐阜）
拝島（東京）不戦勝 屋代（長野）
丸山（兵庫）12（4－5、5－4…1－1、2－1）11 落合（岡山）
寺井（石川）16（8－3、8－2）5 釧路北（北海道）
岐陽（山口）20（9－1、11－4）5 江刈（岩手）
汐路（愛知）16（10－3、6－4）7 谷山（鹿児島）
伊奈（茨城）12（4－2、8－1）3 金屋（和歌山）

▽同準々決勝

鶴城 14（9－4、5－3）7 大平
拝島 5（3－1、2－3）4 丸山
岐陽 9（3－1、6－5）6 寺井
汐路 11（2－4、3－3…6－3）10 伊奈

▽同準決勝

鶴城 27（14－1、13－3）4 拝島
岐陽 17（9－7、8－8）15 汐路

▽同決勝

鶴城 14（6－3、8－6）9 岐陽

得	【岐陽】		【鶴城】	得
0	岡田	GK	坂田	0
0	中村	GK	江口	0
0	吉村	FP	山下	0
0	中村	FP	光永	0
0	田中	FP	清村	1
3	小林	FP	池田	0
1	沢井	FP	高浜	0
5	渡辺	FP	落合	6
0	徳原	FP	高木	1
0	糸永	FP	野嶋	6
0	棟兼	FP	宮本	0
0	遠藤	FP	園田	0
9（0）		PT		14（0）

（審・後藤、島田）

○…点差はともかくとして、両チームとも決勝戦ですばらしい技と闘志を見せ、場内を大いにわかせた。

前半、鶴城は動きがかたく、ボールの離しが多少ずれた所を、岐陽のすばやいディフェンスにつぶされ、チャンスをなかなか作れなかった。

一方岐陽はすばらしいダッシュからのカットインでシュートをはなつが鶴城GKの好守にあい両チームとも主導権を得られなかった。

後半に入り、シュート力に優る鶴城が優位に立つが、岐陽も粘りに粘った、すばらしい闘志の好ゲームだった。（平岡）

第8回 全国中学校大会の運営について

実行委員会副委員長
香積　見一

第八回全国中学校ハンドボール大会を無事予定通り終了することができました。その間関係各方面のご支援、ご協力を得ましたことに深く感謝いたします。五月末に実行委員会を組織して以来全力を傾注いたしましたが、何かと不行届の面がありましたことをおわびいたします。今後の運営を円滑にするために今回の反省をこめて二三所感を述べます。

一、主催者業務と主管者業務との確認

本年から教育内活動として認められたことに伴い全国中体連主催の線が名目上濃くなったかに見えました。然し、主管を担当する私どもとしては、中体連・協会との合意の上で従来通りの九ブロックで行うことを決定していたため、実質的には昨年までと同じように地方ブロック大会が運営されることと期待しました。そのために各ブロックで中体連、協会の連繋がとられる筈のものと考えていました。このあたりの確認は今後当然主催団体において合議上、徹底されるべきものであろうと考えます。

従って、各ブロック大会についての情報を、主催団体において把握し、主管団体に提供するようにしていただきたい。

一、各ブロックの中体連と協会との連繋を密にし、一体化した体制の確立

前項に関連するわけですが、中体連、協会の二元対立的な考えでなく、ブロックの実情に応じて、実質的な中学校大会運営の体制作りが緊急の要務であると思います。出遅れたきらいはありましたが、本年の大会第二日目に全国中体連ブロック代表と日本協会普及部、中学部の合同会議を開き、意思の疎通を図り、今後の方向にある程度見通しが立てられたことは幸いでした。

一、各地区ブロック大会のプログラム（選手名記入のもの）を事前に主管団体に送付しておくことにより、本大会プログラム作成に時間的余裕が生まれる。

今回はチームからの正式申込書の送付が遅いところがあり、実に4日間で印刷、製本をしたために一回の校正に止まり、ミスプリントが多くありました。まことに申しわけなく思います

それにつけても、事前に各大会プログラムを入手していれば、代表決定時に校名をとりあえず電話で報告を受けることによって、かなりの余裕を生ずるはずです。

その他細かいことについては、来年度開催県の主管団体に、確実に申送りといたしたいと考えています。

終りに、全国中学校大会が教育活動の中で着実に、然も過熱することなく発展し、ハンドボール界の底辺を確かなものにすることを祈念いたします。

日本協会普及指導部
「中学部」委員
山中　善之祐

本年度より、文部省後援、全国中体連主催の学校内教育活動の大会となり、いろいろな問題を含みながら、開催されましたが、東京都協会、東京都中体連ハンドボール部のご尽力と中央大学のご協力により、男子、山口県下松中学校(初)女子、熊本県鶴城中学校（三回目）がそれぞれ優勝の栄冠を得無事大会を終了出来ました事を心より感謝いたします。

さて、今後の中学校大会についてですが、中体連の組織が、高体連のように完全に、全国組織が、出来ておらず、府県、ブロックにおいては未組織な所が存在する現状で、府県予戦、ブロック予戦を見ても、会場の確保、審判員の確保に協会の協力を必要とし、又協会主催で実施している府県がある様な実体である事を考え、今後本大会を発展させる為には今まで以上に、協会と中体連の綿密な連絡と話し合いが、全国、ブロック、府県共に必要だと思います。

次に、日程参加チーム数ですが、

日程は本年度の三日間の大会より一日延長し、四日間とし、一日一試合を目標として、余った時間帯にナショナル選手の模範試合、技術指導等を入れ、選手に意義ある大会参加とさせると共に、中学生のレベルの上昇と普及をはかる事も必要だと考えます。

参加チーム数の問題では、現在の8ブロック（協会9ブロック）十六チームでは普及度より見たブロック割等でブロク間に問題があり予戦等に不都合な面が見られますので（府県1チームが理想ですが）現在の中学校の普及度より、近接府県二〜三より一チームの代表参加、二十四チームにすれば、協会サイドの9ブロックと中体連側の8ブロックも無理に調整する必要がなく（ブロック代表でないので）なりますし、今までの様に府県予戦ブロック予戦—全国大会が、一ケ月の短日時に集中し、大会と大会の間の生徒の体力調整が困難であったのが、ブロック予戦がなくなり近接府県の対戦になる為に、一ケ所に集まる必要がなく府県間の話し合で日程が組めるので調整がかんたんに出来、日程に余ゆうを持って、全国大会に参加出来ると共に、ブロック大会に必要であった経費（交通費・宿泊費）も軽減出来ます。

第三に、中学校（生）対策（指導普及）としては、先に述べましたが、全国大会だけではなしに、府県予戦（大会）ブロック予戦にも協会の普及委員、強化委員、審判委員等の方々の参加を願い、競技技術、審判技術の指導と助言を受け、中学校指導者の技術向上をはかると共に、地方の生徒にもナショナルチーム等のスタープレヤーの指導をぢかに受ける事により、ハンドボール競技に対する情熱をわかさせる事も普及発展の為に必要だと思います。

最後に、本大会を継続し、発展させる為に一番必要な事は、協会よりの補助金の継続をお願いします。文部省よりの交付金もありますが、小額の上にいろいろな制約があり、支出に困難をともない、大会運営に支障をきたす面も多く（生徒・付添教員の補助金集）開催府県の協会、中体連に負担をかけますので、今後共継続したご助力援助をお願いします。

宮崎国体展望

10月15〜19日

第34回国民体育大会ハンドボール競技は、10月15日から19日まで宮崎市に、4種別70チームが参加して行われる。

今年の全県参加種別は成年男子、すでにフルエントリーが発表されており、この種別を軸に、爽秋の宮崎に熱戦がくりひろげられる。有力チームを探ってみよう。

（成年男子・47チーム）　優勝争いは、例年どおり日本リーグ勢を代表に送る愛知(大同特殊鋼)、広島(湧永薬品)、三重（本田技研鈴鹿)、大阪（大阪イーグルス)、東京（三陽商会）を中心に展開されることは、間違いない。

さらに、焦点を絞れば愛知—広島の決戦から、愛知の7連勝が成るか、広島の雪じょくが成るかだろう。評判は、相変らず愛知のほうが上だが、最近の広島は「大同戦」になっても、かっての固さがほぐれてきている。目にみえないこの"前進"は、大きいと思う。

広島にとっては、準決勝で一発をかけてくる三重の闘志が要注意

日本リーグ勢以外で、上位にのしてくるのは、どこか。

順当なら、地元宮崎(全宮崎)、埼玉（大崎電気）のベストエイト進出が予想され、このほか、兵庫（県選抜)、栃木（栃の葉ク)、大分（新日鉄大分）あたりにチャンスがある。

日本リーグ所属といっても、大阪、東京あたりはつけこむスキがあるのではないか、といった声も聞かれるのは、社会人球界の意気が感じられ、たのもしい。

このほか、好チームといわれるのは、東北ミニ国体を制した宮城(全宮城)、伝統の山口（山口教員団)、まとまりの秋田（湯沢ク)、闘志盛んな富山(全富山)、十年にわたる宿願を成就させた丸善石油松山の愛媛、広く深い底辺をもつ熊本(全熊本)、巧者を揃えた千葉(千葉教員）などだ。

茨城×三重大激戦か

（成年女子・11チーム）　男子同よう、日本リーグ勢による一本勝負の様相だ。

なかでも、日本リーグで快進撃をつづける（本誌20頁参照）茨城（日本ビクター）×三重（ジャスコ）の決勝対決は、八分どおり動くまい。

昨年の長野国体では、激戦の末三重が初の全国タイトル獲得を飾っているが、今回も、壮烈な試合になりそうである。

すでに、全日本実業団選手権（5月）をとっている日本ビクターは、ここでも勝って、日本リーグの"決勝"（10月28日）へ、はずみをつけたいところだろうが、ジャスコも、今回落とすと、全タイトルを、ビクターに渡してしまうことになりかねない。連覇を狙って激しい試合をみせよう。

この両者の死角を探してみたがなかなか見つからない。

わずかに、熊本（立石電機）が準決勝・三重戦で、どう出てくるかだが、GK井村、FP薮田を世界ジュニアへ送っているのは痛い。

茨城の準決勝の相手は、石川（北国銀行）だろうが、部分的に苦戦はあっても、今年の石川には、茨城を押し切るパワーがないだけに、波乱はおこるまい。

大阪（大和銀行）も力をつけているが、熊本、三重連破は難しかろう。

クラブ勢では、大分（大分東シニア）×愛媛（NSMク）の対戦が興味深い。ともに、有力高校のOGによる編成で、気力は、日本リーグ勢に劣らない。

山口（徳山ク）も、日本リーグ復帰を狙うムネカタの福島に、勝算を抱いての対戦といわれる。

3連勝目指す氷見高

（少年男子・11チーム）　氷見高の富山が、七人制になってから初めてといわれる三連勝を遂げるかが、大きなみものだ（十一人制時代には、桜台高（愛知）がマーク）

対戦相手は2回戦大阪（高校選抜)、準決勝宮崎（全宮崎)、決勝は、愛知（高校選抜）×福島（県選抜）の勝者とみるが、最大の難関は、地元宮崎だろう。

ここさえ通り抜ければ、どこが出てきてもピックアップチームが相手、単独の特色を活かして、勝ち抜けるような気がする。

この考えかたすれば、逆ゾーンから東京（中大付属高）が勝ちあがってきた時、もつれることになる。

中大付属高は、センバツ(3月)で快勝し、夏も絶対といわれながら落としただけに、国体へかける闘志はすごい。

しかも、夏の覇者・中京を主力とした愛知、久留米工大付属高を主要にする福岡とつづくスケジュールは願ってもないものだろう。

思い切った予想をするなら、優勝の可能順位は、富山、宮崎、東京だ。

強豪ひしめくAパート

（少年女子・11チーム）　Aパートに石川（小松市女高)、千葉（選抜)、山口（高校選抜)、熊本(選抜)、愛知(選抜)がひしめく。

千葉は、夏の勝者・栃木女を中心の栃木を予選で退けて出て来た

Bパートは、宮崎(小林商高)、愛媛(新居浜商高)、夙川勢の兵庫といったところで、宮崎×愛媛の勝者が、勝ち進もうから実力的には、Aパートの勝者が優勝に近いという声が圧倒的。

さて勝ち進むのは石川か、熊本か。

両者は、このところ宿命的ともいえる間柄だが、今回も準決勝ながら大激戦になろう。

熊本は、ここで勝てば、一気に優勝を望めるし、準地元ともいえる会場だけに、気力をみなぎらせよう。

石川も、インター・ハイで不覚（準々決勝で栃木女に敗れる）をとっているだけに、奮起しての試合ぶりが注目される。

ダークホースは宮崎、山口。

宮崎、どこまで進出か

（得点争い）▽天皇杯（男女総合得点）4種別に代表を送っている北海道、福島、愛媛、宮崎をトップグループに、有力チームをもつ愛知、三重、福島、茨城、石川、広島、熊本が迫ろう。

▽皇后杯（女子総合得点）　石川の2連勝に茨城、熊本、福島が立ちはだかる。このほか三重、山口、宮崎にもチャンスなしとはいえない。

報告③

IHF・レフェリーとコーチシンポジューム

安藤純光
（日本協会常務理事）

日本ハンドボール協会においても普及指導部あるいは技術部などの部門で、ハンドボール競技の普及の一策としていわゆるミニハンドボールが検討されてきている。今回のシンポジュームにおいて、ユーゴスラビアのガブリロ・ゴジニック氏によって発表された「ミニハンドボール」について報告する。発表は8才から10才くらいの少年少女によるデモンストレーションを交えて、体育館で行なわれた。

「ミニハンドボール」の実演の前に、ガブリロ・ゴジニック氏は次のような講演をした。

I　はじめに

ハンドボール競技は、非常に広く行なわれているスポーツである男子も女子も何十万というプレイヤーが、ハンドボール競技を行なっている。

国際ハンドボール連盟(IHF)は、ハンドボール競技がさらにそう大衆的なものとなって、いく百万という男女のプレヤーによってプレイされることを願っている。世界のすべてのハンドボール競技の愛好家の将来をきりひらく数ある可能性の一つは、全世界のすべての少年少女がハンドボール競技を行なうようにすることである。

II　「ミニハンドボール」とは？

「ミニハンドボール」とは、正規の競技場より小さい場所で行なわれるハンドボール競技のことである。ハンドボール競技は、世界の多くの国々で現に行なわれている。「ミニハンドボール」は、少年や少女をハンドボール競技に導入しようとするものである。「ミニハンドボール」こそハンドボール競技の未来なのである。

III　「ミニハンドボール」を行なうプレイヤーは？

「ミニハンドボール」を行なうのは、少年や少女である。少年男女の誰れでもがプレイヤーとなりトレイナーとなり、世話係となりレフェリーとなり、またスコァラーあるいはタイムキーパーとなることができるのである。このように「ミニハンドボール」では、医師から強い運動を禁じられているような少年少女も一緒になって行なうことができるのである。このことは、ただ彼ら自身にとってばかりではなく、社会にとってもきわめて有用なことなのである。（ミニハンドボールは、さらにまた大人も行なうことができる。大人はこれによって健康をよりよく高めると共に寿命をのばすこともできるのである）。

「ミニハンドボール」は、主に7才から8才の少年男女によって行なわれべきであり、こうして彼らは小さいうちからハンドボールに「なれ親しみ」またハンドボールへの愛好心をもつようにしたい。彼らは成長しやがて正規の競技場でハンドボールを行なうようになるであろう。

IV　「ミニハンドボール」を行なう場所は？

「ミニハンドボール」は、あらゆる場所で、体育館でも、校庭でも、幼稚園でも、またピクニックのときにも、あるいは海浜や湖畔でも、そして公園でも、などなどいたるところで行なうことができる。

その他、バスケットボール・バレーボール・テニスなどのコートでも、そしてその他の運動場でも広場でも行なうことができる。すなわち「ミニハンドボール」は、どこでもいたるところで行なうことができるのである。

V　「ミニハンドボール」を行なう時間は？

「ミニハンドボール」は、夏冬を問わず、野外でも体育館の中でも、年間を通じていつでも行なうことができる。

VI　「ミニハンドボール」の行ない方は？

「ミニハンドボール」は、ハンドボール競技と同じように行なわれる。ただし、その競技規則的には、わずかながら違いがある。これは一つには、その競技場の広さが小さいということに由来するものであり、その意図によるものでもある。

すなわち、少年や少女がはじめから活発に、楽しくしかも人間的に、また反スポーツマン的な行動に陥ることなくプレーすることを目指しているからにほかならない

VII　「ミニハンドボール」のプレイの運営組織は？

すでに述べたように「ミニハンドボール」は、学校でも、幼稚園でも、海浜や湖畔でも、ピクニックに行ったときにも……行なうことができる。重要なことは、できるだけ多くの子どもたちがプレーできるようにすることである。しかもそれは、ただ時々やるというのではなく、常時プレイするようにすることである。

学校に例をとって、「ミニハンドボール」のゲームをどのように組織し運営するかを示しておく。

――1クラスで2ないそれ以上の「ミニハンドボール」のチームをつくり、クラス内のゲームを行ない勝敗をきそう。

――同一学年の各クラスの選抜チームで勝敗をきそう。

――各クラスの優勝（または選抜チーム）で校内選手権をあらそう。

――各校の代表チームによって学校対抗戦を行なうなど…。

VIII　「ミニハンドボール」の競技場は？

競技場は原則的には正規のハンドボール競技を行なうものと同じであるが、違うのはその大きさである。競技場のとり方(長さ・巾)は、プレイができるものであればよい。少年少女がスポーツを行なっている場所なら、どこでも「ミニハンドボール」の競技場をとることができる。

IX　「ミニハンドボール」と正規の「ハンドボール」の競技規則は、どの程度違うか？

「ミニハンドボール」と正規の「ハンドボール」の競技規則の違いは、わずかである。

IHFは、すでにかなり以前か

ら世界の「ミニハンドボール」の発達を注意深く見守ってきている「ミニハンドボール」は、今日世界のかなり多くの国で行なわれている。IHFは、「ミニハンドボール」の統一的競技規則を最初から押しつけるようなことはしないで、それぞれの国で独自の競技規則がつくられるべきであるという立場をとっている。このような観点に立って、ある程度進歩した段階に到達したならばそこでIHFは、「ミニハンドボール」の競技規則を決めたいと考えている。

われわれは、「ミニハンドボール」の競技規則と正規の「ハンドボール」の競技規則とができるだけ近いものになるように努力をはらっている。こうすることによって少年や少女が「ミニハンドボール」から正規の「ハンドボール」へできるだけ簡単に入ってゆけるようにしたいと考えている。それ故に、われわれの提案する「ミニハンドボール」の競技規則は、正規の「ハンドボール」の競技規則に対して最少限の変更である。その変更の試案は次のようなものである。

〔1〕 競技規則1、競技場

競技場の大きさの最大限は、長さ30m、幅18mとし、最小限は、長さ15m、幅12mとする。しかしやむをえない場合には、さらに小さくすることもできる。競技場の大きさは、使用することができる場所の大きさによってきめられるということである。プレイヤーの能力によって、競技場の大きさを決め、プレイヤーに大きさを知らせる。

ゴールエリアラインは、ゴールラインの中点を中心にして6mの半径でひいた半円である。フリースローラインは、ゴールラインの中点を中心にして9mの半径でひいた半円である。(図参照)

〔2〕 競技規則2、ボール

少年男女の使用するボールは、周囲48cm～50cmとし、重さは280g～310gとする。高年令者の使用するボールは、周囲52cm～54cmとし重さは310g～340gとする。

〔3〕 競技規則3、プレイヤー

一チームのプレイヤーの数は最高10名とする。すなわち2名のゴールキーパーと8名のフィールドプレイヤーである。このうち同時に競技場に出ることができるのは6名(フィールドプレイヤー5名とゴールキーパー1名)のプレイヤーである。一チームは、最低3名のフィールドプレイヤーと1名のゴールキーパーがいれば競技を開始することができる。

〔4〕 競技規則4、競技時間

競技時間は、少年男子では20分×2、少年女子では15分×2としそれぞれ間に10分の休憩をおく。

高年令者では20分×2とし間に10分の休憩をおく。

〔5〕 競技規則9、得点

ボールの全外周が完全にゴールの中のゴールラインを通過したときに得点となる。

〔6〕 競技規則10、スローイン

スローインから直接得点することができる。

〔7〕 競技規則12、ゴールスロー

ゴールスローから直接得点することができる。

〔8〕 競技規則13、フリースロー

フリースローを行なっている間両チームのプレイヤーはゴールエリアラインとフリースローラインの間にいることができる。

〔9〕 競技規則14、ペナルティースロー

競技場全域において相手に対して粗暴な違反行為を犯した場合には、被害を受けたチームにペナルティースローをあたえる。

X 「ミニハンドボール」のこれまでの経験は何をもたらしたか

(A) ゴールエリアラインが半円であり、またその中心点がゴールラインの中心であるということから、ゴールエリアラインとゴールポストとの間隔が両サイドではせばまり、6mではなく4.5mしかない。このことは、シューターにとって狭い角度からゴールを狙うのに都合のよい可能性をもたらすことになる。またこのことは、ディフェンス側にとっては、キイドまで広がってディフェンスすることを余儀なくされることになり、それがまたさらにゴールの中央からの得点を容易にすることになる。

(B) 競技場が短かくなっているので、プレイヤーの動きは著しく活発になった。

(C) 速攻は、一そう早くなりまたより効果的になった。

(D) ボールをもつプレイヤーの移り変りがはるかに頻繁になり、プレイの展開は、ますます魅力的になった。

(E) 粗暴な違反はほとんど見られなくなった。

(F) シュートは、より大きな懲罰となった。さらに加えてゴールの可能性は大きくなった。

このようにして、スポーツに反するプレイとスポーツに反する行動は、ほとんど見られなくなった

(G) 平均的にみると一回の攻撃時間は、約12秒である。もはやぐずぐずしたプレイ運びはみられなくなり、また消極的なプレイもなくなった。

(H) 「ミニハンドボール」のおかげで、多くの少年男女にとって初恋いのスポーツとなった。

(I) 「ミニハンドボール」は、多くの高年令者のハンドボールプレイヤーとしてのスポーツ生命を延長することになった。

XI コーチの課題

「ミニハンドボール」を通じて年少の初心者を指導しようとするエクスパートにとって、その重要な課題は、ハンドボール(ボールの扱い方)の技術的な諸要素(基本)を、きれいに、きちんと、正しく教えこむということである。

(この項おわり)

各地の記録

◆宮崎国体県予選特集

▼福島県▽成年男子準決勝
福島SGク 27―19 福島教員
全郡山 29―12 自衛隊福島
▽同決勝
福島SGク 26（15―8 11―9）17 全郡山
▽成年女子決勝
ムネカタ 17（7―2 10―3）5 小高OG
▽ジュニア男子準々決勝
聖光学院 32―10 郡山北工
南会津高 15―10 好間高
長沼高 14―11 学法石川高
安積高 14―12 郡山高
▽同準決勝
聖光学院 32―18 南会津高
長沼高 22―14 安積高
▽同決勝
聖光学院 22（10―7 12―6）13 長沼高
▽ジュニア女子準々決勝
石川高 10―9 県福島工
長沼高 24―3 日本女工
安積女 12―6 安積高
緑が丘 13―6 小野高
▽同準決勝
長沼高 10―7 石川高
緑が丘 9―2 安積女
▽同決勝
緑が丘 9（5―5 4―3）8 長沼高

▼秋田県▽少年男子準決勝
大曲農 32―10 秋田南
湯沢高 24―11 大曲高
▽同決勝
大曲農 23（11―7 12―6）13 湯沢
▽少年女子準決勝
和洋高 18―4 六郷高
大曲農 20―11 大曲高
▽同決勝
和洋高 17（8―6 9―3）9 大曲農
▽成年男子準決勝
湯沢ク 48―21 下北手ク
飛遊ク 15―14 秋南ク
▽同決勝
湯沢ク 39（16―9 23―2）11 飛遊ク
▽成年女子決勝
全和洋 9（7―3 2―5）8 和洋高

▼岩手県▽少年男子準々決勝
盛岡商 27―9 久慈高
花巻北高 19―14 釜石南高
花巻農高 30―10 福工
盛岡一高 29―3 水沢高
▽同準決勝
盛岡商 18―10 花巻北高
盛一 22―8 花農
▽同決勝
盛岡商 17（9―3 8―2）5 盛岡一高
▽少年女子準々決勝
花北 9―3 釜商
盛二 7―6 平舘
黒南 7―4 岩女
花南 16―0 久慈山形
▽同準決勝
盛二 6―2 花北
花南 11―5 黒南
▽同決勝
盛二 9（5―1 4―1）2 花南
▽成年男子一部準決勝
岩手教員ク 35―22 花巻送球会
盛岡商友会 16―12 花巻ク
▽同決勝
岩手教員ク 29（15―8 14―7）15 盛岡商友会
▽成年男子2部準決勝
一関商専 19―11 岩手自衛隊
岩手大 26―10 志高ク
▽同決勝
岩手大 20（12―7 8―7）14 一関高専
▽成年女子
岩手桐花ク 17（7―4 10―1）5 三英英会

▼千葉県▽少年男子準決勝
清水高 17―4 千葉南
▽同決勝
清水高 27（12―3 15―1）4 佐原高
▽少年女子準決勝
昭和学院 15―2 和洋女
▽同決勝
昭和学院 18（10―3 8―3）6 東邦高
▽成年男子準決勝
千葉教員 25―17 海自下総
出光千葉 31―17 日産石代
▽同決勝
千葉教員 38（21―8 17―9）17 出光千葉

▼茨城県▽成年男子準々決勝
コンドルズ 31―15 日本原研
日製日立 13―12 千代田ク
竜ケ崎ク 13―10 自衛隊古河
自衛隊勝田 29―18 笠間ク
▽同準決勝
コンドルズ 25―11 日製日立
自衛隊勝田 22―11 竜ケ崎ク
▽同決勝
コンドルズ 24（14―9 10―11）20 自衛隊勝田
▽少年男子準々決勝
土浦工 25―18 日立工
水海道一 21―17 太田一
麻生高 26―14 石岡一
下館一 27―20 笠間高
▽同準決勝
土浦工 19―13 水海道一
麻生高 29―19 下館一
▽同決勝
麻生高 21（8―8 13―11）19 土浦工
▽少年女子準々決勝
鉾田二 15―5 笠間高
竜ケ崎二 19―3 高萩高
麻生高 16―6 太田二
結城二 16―4 藤代高
▽同準決勝
竜ケ崎二 17―9 鉾田二
麻生高 13―9 結城二
▽同決勝
竜ケ崎二 19（8―6 11―6）12 麻生高

▼群馬県▽成年男子準決勝
前橋ク 31―16 甘楽ク
群馬教員 34―22 富岡ク
▽同決勝
群馬教員 37（18―11 19―9）20 前橋ク

▼長野県▽成年男子決勝
北農ク 19（11―8 8―7）15 かつらおク
▽成年女子決勝
小商OGA 8（3―3 5―3）6 小商OGB
▽少年男子（選抜対抗選考試合）
A選抜 15―13 B選抜
B選抜 13―10 C選抜
A選抜 14―8 C選抜
D少年女子（同）
A選抜 12―10 B選抜
B選抜 11―9 C選抜
A選抜 13―9 C選抜

▼福井県▽成年男子準決勝
大飯郡 32―15 鯖江市
福井市 30―21 武生市
▽同決勝
▽同決勝
福井市 29（14―16 15―5）21 大飯郡
▽成年女子準決勝
福井市 9―6 武生市
▽同決勝
福井市 32（19―4 13―4）8 鯖江市
▽少年男子準決勝
羽水高 14―10 高志高
北陸高 25―8 福商高
▽同決勝
羽水高 22（13―9 9―5）14 北陸高

▽少年女子準決勝
福商高 24―1 藤島高
仁愛高 17―6 武商高
▽同決勝
仁愛高 12（6―3 6―5）8 福商高

▼富山県▽成年男子準決勝
氷見ク 31―12 射水ク
富山教員 24―14 八尾ク
▽同決勝
富山教員 15（7―6 8―6）12 氷見ク
▽成年女子決勝
有磯ＯＧ 14（10―2 4―5）7 桜球会
▽少年男子準々決勝
氷見高 26―8 富山高
八尾高 21―17 富山南
高岡高 26―8 富山中部
高岡日大 23―3 雄山高
▽同準決勝
氷見高 31―10 八尾高
高岡商 11―6 高岡日大
▽同決勝
氷見高 24（10―5 14―5）10 高岡商
▽少年女子準々決勝
高岡日大 11―7 富山女短代高
清光女 14―5 高岡女
小杉高 6―3 富山東
有磯高 13―2 富山女
▽同準決勝
清光女 14―7 高岡日大
有磯高 18―2 小杉高
▽同決勝
有磯高 24（12―3 12―2）5 清光女

▼石川県▽成年男子準決勝
金沢市役所 33―9 レインボーク
金沢あすなろク 22―12 県工ク
▽同決勝
金沢あすなろク 14（5―4 9―9）13 金沢市役所
▽少年男子準々決勝
小松 14―11 小松工
金沢商 15―12 向陽
錦丘 18―12 寺井
星稜 15―6 羽咋
▽同準決勝
小松 24―4 金沢商
錦丘 15―13 星稜
▽同決勝
小松 17（9―6 8―5）11 錦丘
▽少年女子準決勝
小松市女 23―1 加賀
松任 15―11 金沢商
▽同決勝
小松市女 21（8―1 13―1）2 松任

▼高知県▽成年男子準決勝
高知ク 38―10 中村ク
土佐高ＯＢ 17―15 吾北ク
▽同決勝
高知ク 40（17―5 23―10）15 土佐高ＯＢ
▽成年女子決勝
高知ク 18（9―1 9―3）4 中村ク

▼愛媛県▽成年男子決勝
松山ク 32―13 新居浜ク
丸善石油 15―11 住友化学
▽同決勝
丸善石油 18（7―7 11―8）15 松山ク
▽少年男子準決勝
新居浜工 31―10 宇和島南
松山北 17―11 新田高
▽同決勝
新居浜工 22（9―3 13―6）9 松山北
▽少年女子準決勝
新居浜商 14―3 松山西
東温高 11―8 西条豊
▽同決勝
新居浜商 23（13―0 10―1）1 東温高

▼島根県▽成年男子準決勝
朝酌ク 36―6 江津ク
島根町体 23―11 浜田水ク
▽同決勝
朝酌ク 22（11―8 11―6）14 島根町体
▽成年女子決勝
松江ク 15（7―8 8―2）10 浜田商
▽少年男子準決勝
松江南 31―3 羽須美
飯南 23―18 浜田水
▽同決勝
飯南 17（8―6 9―7）13 松江南
▽少年女子予選リーグ
松江第一 16―6 浜田水
松江南 12―3 松江第一
松江南 14―9 浜田水
浜田商 24―4 松江農
浜田商 13―12 松江市女
松江市女 22―5 松江農
▽同決勝
浜田商 8（3―3 5―4）7 松江南

▼鳥取県▽少年男子準決勝
境港工高 35―7 米子東高
倉吉東高 21―4 米子北高
▽同決勝
境港工業 25（9―3 16―0）3 倉吉東高
▽少年女子準決勝
倉吉西高 16―5 倉吉産高
米子南高 13―4 米子北高
▽同決勝
米子南高 19（11―4 8―4）8 倉吉西高
▽成年男子準々決勝
境港市ク 24―17 中部ク
関金ク 28―17 倉吉ク
▽同決勝
関金ク 21（10―10 11―7）17 境港市ク

▼山口県▽成年男子準決勝
山口教員 34―33 岩国ク
徳山ク 46―26 下松ク
▽同決勝
山口教員 28（14―10 14―10）20 徳山ク
▽成年女子準決勝
岩国ク 18―8 山口ク
徳山ク 20―11 田部ク
▽同決勝
徳山ク 19（13―2 6―10）12 岩国ク
▽少年男子準決勝
岩国工 35―13 岩国高
下松工 38―19 宇部工
▽同決勝
岩国工 31（11―7 20―12）19 下松工
▽少年女子準決勝
徳岩佐連 25―2 岩国高
岩国商 7―5 徳山高
▽同決勝
徳岩佐連 21（9―4 12―6）10 岩国商

▼長崎県▽少年男子準決勝
長工高 12―10 瓊浦高
日大高 20―16 国加高
▽同決勝
日大高 10（5―4 5―4）8 長工高
▽少年女子
佐商高 6―3 日大高
島農高 11―6 佐商高
島農高 10―8 日大高
▽成年男子
佐世保ク 28―17 長崎ク
国加ク 28―17 長崎ク
佐世保ク 44―14 国加ク

東北ミニ国体終わる

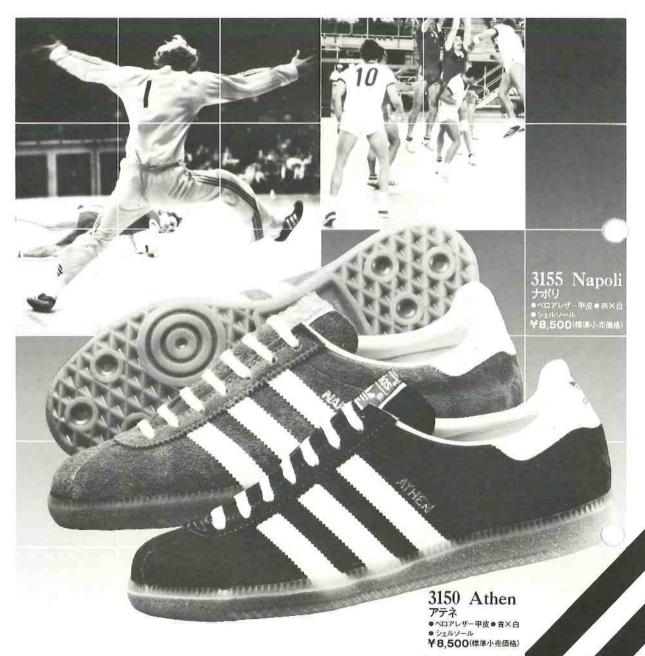
第6回東北ミニ国体（東北総合体育大会）は、9月1日から3日間青森県で開かれ、ハンドボール競技は、野辺地町で行われた。

その結果、成年男子は、全宮城がＳＧク（福島）を25―23で破り初優勝、同女子はムネカタ(福島)が予想どおり二連勝した。

注目の少年は、男子とも福島県選抜が優勝、福島県の総合優勝（第1回以来6連勝）に大きく貢献した。

アディダスで正しいテクニックを身につけたい。

3155 Napoli
ナポリ
●ベロアレザー甲皮●赤×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

3150 Athen
アテネ
●ベロアレザー甲皮●青×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

デンマーク・ワールドチャンピオンシップでも、優勝ドイツチームを始め、世界16ヶ国の代表選手の78%もがアディダスハンドボールシューズでした。そのヒミツは、誰にも負けない経験と実績、そして技術開発力を背景に、世界のトップ選手のアドバイスを商品開発にダイレクトに生かしているからに他なりません。ストップ、ターン、グリップに理想的なアディダス独自のソール設計。足への文句のないサポート感。加えて、足を良く守るヒールカウンター、パッド…。大切なゲームであなたに必要なのはこのアディダス機能です。

The all-sports people

adidas®
The science of sport.

●お求めはadidas特約店で

発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社
〒532 大阪市淀川区木川東2−5−3 ☎06・305−1431
〒130 東京都墨田区緑2−12−3 ☎03・634−1411

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一七九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五四年九月二十五日印刷 昭和五四年十月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円（年間購読料 三千三百円）